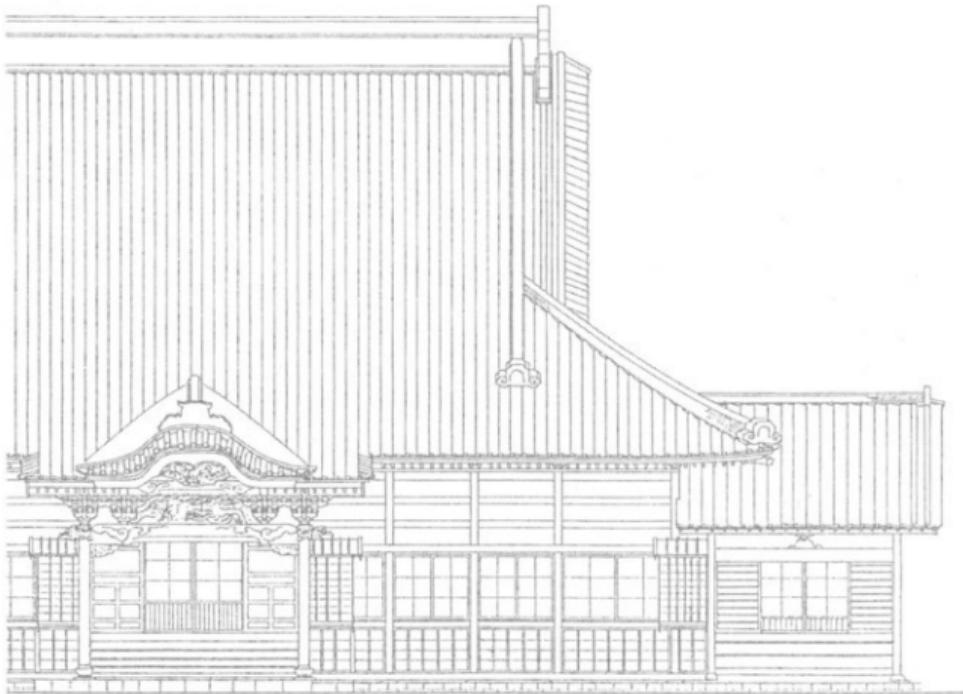


文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成3年度

第 22 集

序

近年の文化財保護行政はその予算、事業量、事業内容、市民のみなさんへの係わり方等の面で大きく変わってきております。

一時期、発掘調査に伴って貴重な発掘成果がマスコミを賑わし、文化財保護といえば発掘であるという認識が広く浸透しました。これは開発に伴う発掘であり、他からの力による成果であり、遺跡の保存にも大変な努力が必要とされました。

文化財の利用、活用がいわれるようになり、発掘から史跡の整備、資料館整備が話題に上るようになると、これは文化財保護の立場からの働きかけであり、持つ意味が大きく違ってきます。

これは、文化財保護の意義が漸く市民の間に広く認識されるようになった表れであると思います。

大室公園史跡整備では、後二子古墳の範囲確認調査が行われ、貴重な成果を得ることができました。整備委員会においても、古墳整備、民家変遷、資料館部会がそれぞれの計画の中で活動し、民家変遷基本設計を完成しました。

歴史散歩道整備については、案内板の設置、散歩道地図増刷など利用増進にむけた事業が行われました。その中核となる郷土資料館についても準備会を開催して話し合い、資料収集を行いました。

総社、元総社地区での散歩道利用促進の秋元歴史まつりも第2回となり、武者行列などのイベントにより昨年をはるかに上回る参加者を集めることができました。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等の事業に加え、県の文化財愛護モデル地区事業の指定を受け、史跡文化財のガイド養成講座を実施しました。これは、平成4年度も実施します。

調査事業では、本書に記載の文化財調査委員の調査に加え、専門家調査、建造物調査を行いました。委員の調査では、明治11年に出土した大室の前・後二子古墳の遺物を調査しました。

埋蔵文化財発掘調査では、開発に伴う試掘調査、11遺跡の発掘調査と芳賀團地遺跡の報告書作成作業があげられます。元総社明神遺跡は第10次、内堀遺跡は第5次、横依遺跡は第4次調査などの調査を実施し、貴重な遺跡の記録保存を行うことができました。

後二子古墳の調査では、古墳の築造年代の調査、猿の埴輪の出土などの成果を得ることができました。

最後に、こういった諸事業にご指導、ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げると共に、この文化財調査報告書第22集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成4年9月

前橋市教育委員会

教育長 岡本信正

目 次

序

目次・例言

I 文化財調査委員による調査	1
大室地区文化財調査の概要	1
観昌寺、湯清寺、大室神社	1
西大室区有文書目録	412件
二子古墳出土遺物等一覧表	75件
II 文化財調査	7
染織品調査	9件
龍海院建造物調査	10
写真	11
III 新指定物件紹介 5件	12
IV 文化財保護事業	17
1. 保護管理運営事業	17
(1) 国有文化財管理	17
(2) 国・県・市指定文化財管理	17
(3) 史跡の除草・清掃作業	17
(4) 文化財パトロール	17
(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理	18
(6) 後援	18
2. 整備事業	19
(1) 総社歴史散歩道整備	19
(2) 龍海院酒井家墓地保存整備	19
(3) 八幡山古墳修復工事	20
(4) 文化財補修工事	20
(5) 標柱、説明板等設置工事	20
(6) 史跡境界杭設置工事	20
3. 普及事業	21
(1) 第17回前橋市文化財展	21
(2) 内堀遺跡現地見学会	21
(3) 文化財めぐりパンフレット増刷	21
(4) 文化財愛護作品コンクール	21
(5) 第19回前橋市郷土芸能大会	21
(6) 教材開発事業	22
(7) 第10回文化財普及講座	22
(8) 史跡、文化財めぐり	22
(9) 各種講座への講師派遣	22
(10) 文化財防火デモ	23
(11) 文化財資料の貸出し	23
(12) 文化財保存団体助成	23
(13) 総社・元総社ガイドブック配布	23
(14) その他	23
4. 調査事業	24
靈光寺梵鐘銘文調査	24
總社神社拝殿調査	24
5. 埋蔵文化財発掘調査事業	25
本年度の発掘を振り返って	25
(1) 横俵遺跡群（西大室町）	29
(2) 内堀遺跡群V（西大室町）	29
(3) 元総社明神遺跡X（元総社町）	30
(4) 芳賀北原遺跡（鳥取町）	30
(5) 前田II遺跡（東善町）	31
(6) 城川I・II遺跡（總社町）	31
(7) 今城遺跡（富田町）	32
(8) 国分境II遺跡（總社町）	32
(9) 二子山前IV遺跡（文京町三丁目）	33
(10) 後二子古墳・小古墳（西大室町）	33
(11) 芳賀団地遺跡整理・道路台帳整備事業	34
6. 大室公園史跡整備委員会	35
(1) 大室公園史跡整備委員会	35
(2) 古墳整備部会	36
(3) 民家変遷部会	36
(4) 資料館部会	37
7. 上泉郷蔵保存修理	38
あとがき	39

例 言

1. 本報告書は、前橋市文化財調査委員の文化財調査結果と前橋市教育委員会管理部文化財保護課で行つた、平成3年度の諸事業の概要をまとめたものである。
2. 本書の企画と編集は文化財保護課で行い、市民の方にわかりやすい表現、構成を心がけた。

I 文化財調査委員による調査

● 観昌寺文化財調査

- 名称 阿弥陀山宝珠院觀昌寺
- 所在 前橋市西大室町甲1673
- 住職 中沢賢淳
- 宗派 真言宗豊山派（本山長谷寺）

西大室町の西に所在する寺である。本尊は宝冠阿弥陀如来である。創立は天文2年慶円上人となっている。慶円上人は中興開山であり、寺の創立はもっと遡るという。

境内には鎌倉期あるいは南北朝期の宝鏡印塔がある。その一つは豪族の大室太郎の墓であると伝えている。

寺の法流は第一世慶円上人以前は所置の古文書から本山觀音山三宝院より三宝院流を伝えていることがわかる。慶円上人は報恩院流を伝え、宝暦10年10月醍醐山報恩院より第十三世尊清法印によって報恩院流が再伝され報恩院末となる。文久3年3月18日香衣浅青色の二色衣寺格を許可される。

明治32年10月に第二十三世賢道僧正によって大法院を伝え長谷寺末となっている。

慶円上人は出家得度後高野山に学び、金剛峰寺で伝法灌頂の室に入ったのが天正8年であった。その後請われて当寺を開基した。

尊清上人は天明年間に諸堂を整備し、宝冠阿弥陀如来像を刻み、醍醐寺より報恩院流を再伝した。東大室町多田より普照寺を合併し本尊の虚空藏菩薩像を移す。また宝鏡印塔を移設する。

賢道僧正は長谷寺に30年余り学び、事相並びに教相に通曉し、宗派内屈指の碩學であった。

古くは、觀昌寺大坊と称し、正楽院などの子院を擁していたと伝えられ、また村社熊野権現（現大室神社）の別当院を司っており、鳥居型山門が

建立されている。

明治18年5月本堂、庫裡を火災で失い、門を残すのみで、明治23年に再建する。

● 湯清寺文化財調査

- 名称 月照山湯清寺
- 所在 前橋市西大室町2071
- 住職 川上哲信
- 宗派 曹洞宗

天正18年、大胡に牧野康成が二万石で領主として入り、西大室村を領有する。

牧野康成は慶長2年に現在の場所に寺を創立し、本尊は牧野康成の守り本尊である十一面觀世音を本尊とし、大胡の長善寺の大通祖參禪師を開山とした。

明治12年火災にあい、本堂、記録および什宝はすべて灰燼にきした。

その後、昭和7年現在の本堂を再建する。

● 大室神社文化財調査

- 名称 大室神社
- 所在 前橋市西大室町1711
- 祭神 熊野大神御氣命
- 例祭日 4月3日

旧名称は熊野神社といい、明治41年12月4日、許可を受けて、境内末社と村内の神社を合併して大室神社と改称した。

例祭日には神樂の奉納や灯籠の献燈があつた。

この神社の立つ位置は、大室城の本丸の位置であり、周囲の堀などもよく残っている。

また、境内南にあつた社務所は芝居小屋として造られたものである。他に神樂殿もある。

本殿と拝殿との間に、江戸時代から明治にかけての国学者、井上正香が所持していた漢籍が保管されている。また、西大室村の区有文書が保管さ

れていた。本殿には明治11年に前二子古墳などから発掘された遺物が保管されていた。

区有文書と遺物については目録を参照のこと。

大室神社内西大室区有文書目録

文書番号	表 题	年 代	作 成 者	数	備 考
1	台寄帳乙			1	収納引出1
2	改正林始落台簿	明治14年5月	南勢多郡大室村	1	
3	上記開帳通知			1	
4	第78回特允區有原野払下願			48	内村野帳2点 引出3 字北山、字焼キ
5	茅水口山 林野帳		第八区四小区 勢多郡西大室村	1	
6	上横表 林野帳		//	1	
7	説謬地種訂正願控	明治22年6月	南勢多郡荒砥村大字西大 室村	1	
8	荒低尋常小学校新築費寄付	明治28年8月	西大室村第二区	1	
9	協議録	明治35年4月2日	西大室協議会	1	収納引出4
10	大字西大室村協議録	明治36年3月28日		1	
11	(土木用材) 土木に関する用材諸庫及人足伝 船料表	明治37年度	荒砥村大字西大室村協議 会	2	
12	明治参拾五年度明細帳	明治36年1月口日製 之	大字西大室村常設委員 栗原芳太郎	1	
13	公有簿帳簿及器具引継目録	明治22年6月1日	戸長役場控	1	
14	有租地或届控				一式
15	大室小学校改築開院文書				一括 収納引出5
16	特別地価修正一筆取調	明治22年10月	西大室 東大室	1	上申控
17	寺地内一筆限地認調写		第八区第四小区勢多郡西 大室村	1	
18	社地内外一筆限地認帳		//	1	
19	官有地入合耕場野帳		東大室 西大室	1	字桂川 字多田山
20	一字庭林等級地価表	明治14年3月5日	群馬県南勢多郡西大室村	1	全村一帳
21	東西大室株権入合地引帳		南勢多郡西大室村東大室 村	1	
22	寺級撫控帳			4	寺号無の穴 武号上横体 三号中横体 四号下横体
23	明治三十六年大字西大室村村民 議定書	明治36年	常設委員萩原友市	1	収納引出6
24	協議録	明治40年4月11日	常設委員飯塚三四五郎	1	
25	協議録	明治40年	//	1	
26	字南苗崎林野帳		西大室村	1	
27	明治三十六年度明細帳	明治37年1月製	大字西大室村常設委員 萩原友市	1	
28	各社経費拂内並財産簿		勢多郡荒砥村大字西大室 村	1	
29	荒砥村農会名簿	明治33年10月5日届	西大室村常設委員	1	
30	明治三十四年度明細帳	明治34年1月製之	常設委員大字西大室村 栗原芳太郎	1	
31	奉事公賃費集金元帳	明治27年12月12日	南勢多郡荒砥村大字西大 室村	1	

32	明治四十二年議員出勤簿	明治42年4月7日	荒砥村第三区良飯家三四 五郎	1	
33	施設費明治三十七年	明治37年1月	大字西大室村継縫会	1	
34	議員人名簿明治四十二年		第三区長	1	
35	野帳	明治18年5月10日	第八大区第四小区勢多郡 西大室村	1	字駒跡穴 収納引出7
36	明治十四年共有地地壳立簿	明治14年1月15日	南勢多郡西大室村	1	
37	官有道路堤防水路鐵道建路字限 仕訳表		ノリ	1	
38	林野帳		八大区第四小区西大室 村	1	第四号字下横幅
39	改正林地券台簿	明治14年5月	南勢多郡西大室村	1	
40	明治三十九年度御料地使用料取 立簿	明治39年10月13日撰 製	常設委員千吉良初太郎	1	
41	大正三年度決算同四年度予算書			1	控字西大室村 収納引出8
42	荒砥村大字西大室村添設費類			1	
43	米麥生産消費調査表 大正5年		荒砥村大字西大室村 区長萩原友市	1	(領收証本3枚)
44	秋蚕種共同購入連名簿其他書類 一袋			1	収納引出9
45	地価調			1	
46	下大屋地圖			1	
47	双児山廻出古器物一~三十六号 出品西大室村			1	
48	土地台帳	明治17年	南勢多郡西大室村	1	収納引出10
49	改正地券台簿	明治13年4月	ノリ	1	三号
50	ノリ	ノリ	ノリ	1	一号
51	ノリ	ノリ	ノリ	1	二号
52	ノリ	ノリ	ノリ	1	四号
53	民有脱落地籍査定額		ノリ	1	
54	園面町正願	明治20年2月5日	森田才三郎	1	
55	共有財産処分伺	明治22年1月17日		1	
56	勸業二農スル書類	明治17年1月	南勢多郡西大室村	1	惣産房表編さん
57	林地等級簿	明治14年3月10日		1	四号
58	地押費收入簿	明治20年度	南勢多郡西大室村	1	区長元
59	地押継續費取立帳	明治19年度	ノリ 事務所	1	
60	林地等級簿	明治14年3月10日	群馬県南勢多郡西大室村	1	三号
61	ノリ	ノリ	ノリ	1	五号
62	ノリ	ノリ	ノリ	1	一号
63	更正願		南勢多郡西大室村	1	
64	ノリ		ノリ	1	
65	村會決議按 明治二十二年度		南勢多郡西大室村伍良	1	収納引出11
66	赤城興業組合員資格証明願	明治30年4月5日		1	
67	公証取消ヲ為サザレモノ索引ノ 願			1	
68~71	66に同じ			1	
72	請求書	明治30年4月日		1	
73	66に同じ			1	
74	公証消印帳			1	

75	明治19年度土木費額算仕出		南勢多郡西大室村	1	浜間氏調
76	66に同じ			1	
77	戦兵達名簿	明治13年2月日		1	
78~80	66に同じ				
81	〃			19	
82	地所売渡證文控	自明治18年7月 至明治19年6月	南勢多郡西大室村外二ヶ 村戸長役場	1	
83~84	66に同じ				
85	西大室寺付達名簿			1	
86	村會決定按	明治20年4月	南勢多郡西大室村	1	
87~91	66に同じ				
92	地所売渡質入庫入公証控	自明治18年7月 至明治19年6月	南勢多郡西大室村外二ヶ 村戸長役場	1	
93	66に同じ			1	
94	赤城神社保存協会名簿	明治29年8月		1	
95	地所売渡質入庫入公証控	自明治18年7月 至明治19年6月		1	
96	村會決定按	明治20年4月	南勢多郡西大室村伍長症	1	
97~102	66に同じ				
103	國民集連名簿	明治17年8月		1	
104	66に同じ			1	
105	請求書			1	
106~110	66に同じ				
111~127	〃			収納引出し12	
128~131	〃			収納引出し13	
132~144	〃			収納引出し14	
145~157	〃			収納引出し15	
158~172	〃			収納引出し16	
173~232	〃			収納引出し17	
233~236	神社開基文書			一括	収納引出し21
237~245	賴田子譜、四天王祭関係				収納引出し18
246~247	繪畫類				
248~249	賴田子譜、四天王祭関係				
250~254	66に同じ			収納引出し19	
255~288	〃			収納引出し20	
328~330	〃			収納引出し12	
407~412	〃				

大室神社所蔵 二子古墳出土遺物等一覧表

カード番号	種別(名称)	材質	法量	備考
1	木箱		板厚 1.3cm 綫 35.6cm 横 25.9cm 奥 25.0cm	ガラスなし 左側面 紀元二千五百三十八年 明治十一年春 開窟 右側面 双児山窟出古器 勢多郡西大室
2	木箱		板厚 1.5cm 綫 41cm 横 19.2cm 奥 21.1cm	スライド式蓋なし 銘文なし
3	木箱		板厚 1.5cm 1.2cm 綫 57.5cm 横 19.8cm 奥 17.8cm	蓋なし 銘文なし
4	木箱		板厚 1.5cm 1.2cm 綫 51.5cm 横 31.7cm 奥 19.2cm	ガラスなし 右側面 双児山窟出 古器物 勢多郡西大室 左側面 紀元二千五百三十八年 明治十一年春 開窟
4-1	円筒埴輪	1点	高 29.2cm 径 17cm	
5	木箱		板厚 1.5cm 1.1cm 綫 20.3cm 横 39.3cm 奥 23cm	ガラスなし 右側面 双児山窟出古器 勢多郡西大室 左側面 紀元二千五百三十八年 明治十一年春 開窟
5-1	円筒埴輪(胡類型)		高 35.6cm 径 15cm	1点
6	木箱		板厚 0.6cm 綫 91.2cm 横 12.9cm 奥 7.2cm	ガラス一部残 右側面紀元二千五百三十八年 明治十一年 双児山 開窟古器物 西大室 内部に太刀の残片 5点(完形で3) 止金具1 鍔の残片5点(完形で3)
7	ねじり環頭			2点
8	大刀せめ金具			9点
9	帯止め金具			11点
10	轡の吊り手			2点
11	鉢			(石突きもあり) 8点
12	ノミ、鉈			1点
13	金環			5点
14	小玉			1点

15	刀子		8点
16	轡		(破片) 9点
17	馬具の吊り手(鞍)		10点
18	大刀破片		一括
19	大刀破片		9点
20	杏葉破片		一括(鉄地 金銀貼り)
21	馬具 環状の鉄器		14点
22	あぶみの吊り手		6点
23	大刀破片		15点
24	葉(縁取) 刃菱形		一括
25	素環轡		5点
26	轡のハミ		1点
27	刀子破片		8点
28	馬具 帕当金具		一括(轡、杏葉の吊り手含む)
29	鉄斧のミニチュア		1点
30	杏葉(内部)		一括
31	大刀 基のはどめ		8点
32	鉄片(帷)		一括
33	大刀等残欠		4点
34	棒状の不明土器		10点
35	鉄片		一括
36	土師器(破片)		7点
37	石		一括
38	後世の混入品		1点
39	木箱	板厚 1.2cm 綫 45.2cm 横 29.7cm 奥 15.8cm	蓋なし 説文なし
40	木箱	板厚 1.5cm 綫 37.7cm 横 16.3cm 奥 21.7cm	スライド式蓋なし 右側面 紀元二千五百三十八年 明治十一年春 開窟 左側面 双児山窟出古器物 勢多郡西大室
41	土師器 脚付高台梶 梶		3点 1点 2点
42	須恵器 大形器台破片		12点
43	すり鉢(破片)		1点
44	土師器 轡(破片)		9点
45	土師器 高杯の脚破片		1点
46	四神付鏡土器の破片		4点
47	赤色塗彩された石		16点
48	埴輪片		8点
49	棲瓦破片		1点
50	石器		3点
51	須恵器 高杯脚破片		8点
52	須恵器 大壺破片		6点
53	土師破片		一括

これらの遺物の点数は、整理の過程での接合等により変わることがあります。

II 文 化 財 調 査

● 光巣寺染織品調査

(1) 白縞子地梅樹文字模様打敷 1枚

江戸時代・18世紀後半

縦170.0 横171.2

紗綾形蘭菊文の白縞子地に刺繡と緞四田で梅樹と文字を表わした打掛裂を表に用い、紅平絹の裏をつけて方形に仕立てた打敷。

梅樹は茶の緞四田と紅・緑糸の平縞と纏い縞及び金糸駒縫いで表され、文字は紅糸の平縞と金糸駒縫いで表される。金糸はやや太めのものを2本並べ、紅糸で駒縫いする。

表裂はもと一領の打掛（あるいは小袖）であつた7枚の裂を縫い合わせたもので、模様のつながり具合から、その内訳は(A)右後身頃、「花」の文字を表す、(B)左後身頃、「雪」の文字を表す、(C)右前身頃、(D)左前身頃、「飛」の文字をあらわす、(E)右袖、前に「夢」、後ろに「梅」に文字を表す、(F)左袖、後ろに「帯」の文字を表す、(G)襟、であることがわかる。従って、本来左右の衽であつた部分の裂2枚が失われている。

もとの打掛（あるいは小袖）は、右裾を起点にして幹をくねらせるよう上方へ展開するいわゆる「立木模様」の形式に属するもので、この流行意匠は18世紀の前半から19世紀前半にかけて盛んに行われた。その初期においては、立木の起点が背面では右裾の中央辺りに位置し、模様全体が右身頃に片寄って表される傾向があつたが、18世紀半ば頃にはこれが次第に背筋中央に寄り、模様全体も背面のほぼ前面に及ぶようになった。まだ立木模様の上方脇辺に詩歌からとった文字を散らす模様を18世紀前半から後半にかけて流行し、小袖や帷子・打掛に様々な例を見ることができる。この作品では散らされている「梅」「花」「雪」「夢」「帯」の文字から、模様が『和漢朗詠集』巻上所載の章

孝標の詩「梅花帶雪飛夢上 柳色和煙入酒中」にちなんだものであることがわかる。/

意匠上のこうした特徴、及び18世紀後半的な特徴を示す技法から見て、当時の小袖形衣服も18世紀後半の作と推定される。更に紅平絹の裏に、「安永四乙未年五月二十四日 貞性院寄附之 化城院殿 靈前 秋元山常住物 第十二世順延代」の墨書きがあり、寄進された安永4年（1775）を幾分遡る時期の作品として位置づけることができる。化城院殿は明和4年まで幕府の老中をつとめた秋元京朝（1717～75）、貞性院はその側室（？～1792）であり、同日亡くなつた夫の化城院殿の冥福を祈つて、妻の貞性院が自らの肌付きの打掛（あるいは小袖）を奉納し、これを光巣寺で打敷に仕立てなあしたことがわかる。

(2) 錦金縞子地松竹梅鶴亀宝尽模様打敷 1枚

江戸時代・18世紀後半

縦154.7 横178.5

紗綾形蘭菊文の錦金縞子地に刺縫で流水と松竹梅・鶴亀・宝尽の模様を刺繡で表した打掛裂を表裂に、紅平絹を裏裂に用いて方形に仕立てた打敷。

刺繡は平縞・纏い縞・刺し縫・乗掛け縫い・割り縫い・金糸駒縫いが用いられ、色糸を使用した刺繡は針目が良く揃つて洗練された仕上がりとなっている。また金糸は紅糸で纏い留められている。茶色に表される緞四田は、模様のごく一部にのみアクセント的に使用されている。

表裂は一領の打掛から得た10枚の裂を縫い合わせて構成されており、その内訳は、(A)右後身頃、(B)左後身頃、(C)右前身頃、(D)左前身頃、(E)右衽、(F)左衽、(G)右袖、(H)左袖、(I)右襟、(J)左襟である。打敷として方形に仕立てるために裁ち落とされた部分もあるが、打掛一領の表裂のほとんどが残っている。

これから復元される当初の打掛の意匠は、裾に波打つ流水、腰から上半身にかけて松竹梅の立木を表すもので、流水の上には宝尽と亀、立木の上には鶴が散らされており、蓬萊模様と呼ばれる類型的な打掛け模様である。蓬萊模様は18世紀後半から19世紀にかけて打掛けや帷子の意匠として用いられ、特に武家の打掛けにおいては、使用される技法は変わっても、この作品に見られる模様に類似した蓬萊模様がしばしば表された。

紅平綱の裏裂には、「打敷 長六尺 幅六尺 鬼金鶴亀松竹縫 為圓淨院殿御菩提也 安永庚子年十一月 秋元損津守永朝公寄附 當寺十二世順海代」の墨書きがあり、打掛けが安永9年(1780)を越る時期に製作されたことがわかる。永朝公(1738~1810)が義姫(栄)の菩提を弔うために、生前着用していた打掛けを光巖寺に奉納し、これを打敷に仕立てたものと考えられる。圓淨院(1748~1780)は、阿部正棟室。

(3) 萌黄地草花蝙蝠模様打敷

江戸時代・19世紀前半

縫155.5 橫159.4

表裂は、経糸が細く緯糸が太い帆織風の平地に経糸を繩糸に浮かせて模様を織り表わす。模様は石桶に似た実を付けた植物と牡丹風の花文を散らし、間地に蝙蝠を配するもので、ヨーロッパの染織意匠の影響を受けているが、中国で織られたものと考えられる。生地幅も74.4cm以上と広く、国産でないことは明かである。下方左右に各1個ずつ立葵の丸紋のアップリケを施し、輪郭と葵の葉脈に紫駆り糸の駆縫を加える。

裏裂は幸徳文の綾地綾。「為燈 了智院殿照譽跡琳清心大姉冥福 文政二巳卯歳 秋七月愈九月本多氏」の墨書きがある。了智院殿照譽跡琳清心大姉は秋元永朝の娘で、文政2年(1819)7月29日に没した。永朝には本多氏に嫁いだ娘が二人あり、一人は本多忠典、他の一人は本多岐康元に嫁いでいる。了智院は本多忠典の室で名は楓

津(1767~1819)である。この打敷が了智院の冥福を祈って嫁ぎ先の本多家から奉納されたことは間違いないだろう。

この打敷を納めている箱の蓋裏にも墨書きがあり、そこには「為 了智院殿御冥福御寄附 打敷 壱枚 但立葵御紋附 文政二巳卯歳九月 秋元山光巖寺什物」と記す。

(4) 紫緞子地木瓜紋打敷

江戸時代・19世紀前半

縫145.5 橫136.0

表裂は荀状の果実を受けた西洋風の唐草模様を表す紫色の緞子地に、糊防染による白上げの技法で秋元家の家紋である木瓜紋を白抜きに表す。緞子は織り幅68cm以上の広幅の織物で、こうした広幅の生地は中国からの舶載裂にしばしば見られる。また模様は、18世紀後半から19世紀にかけて中国で織られ、日本へ輸入された錦や織珍裂にしばしば見られるもので、ヨーロッパの染織模様の影響を受けて生まれた意匠である。従つて、表裂は生地を中国から輸入し、日本で染色したものと推定される。

白麻地の裏裂には、「為長壽院御菩提御納 打敷一枚 文政七甲申歳四月 私元家奥向ヨリ 秋元山光巖寺什物」の墨書きがある。長壽院は、牧野貞長の娘で秋元永朝(1738~1810)の墓室となり、文政6年(1823)11月29日に没した美也のこと、この打敷はその菩提を弔うために秋元家の奥向より光巖寺に奉納されたものであることがわかる。

(5) 紅縮緬地木瓜文鉄線唐草模様打敷

江戸時代・19世紀前半

縫92.3 橫88.7

表裂は、菊折枝の丸文と宝尽文を織り表した文縮緬地に、刺繡で秋元家の紋である木瓜紋と鉄線唐草を刺繡で表す。紋と唐草の茎・葉は金糸駆縫い、花は緑・萌黄・白・茶・紅・薄紅・浅葱・緑の色糸を用いて平繡・纏い縫・刺し縫する。色糸

はやや太めのふっくらした糸を用い、刺し繡では墨し繡とする部分も多い。また金糸は紅糸で縫い留められている。これらは、いずれも江戸後期19世紀前半期の刺繡の特徴をよく表している。

裏は、白平絹に墨で木瓜紋を刷り表している。「大權秋元家ヨリ 為本源院殿 御菩提 御納物 秋元山什物 天保六乙未年九月」の墨書きがあり、この打敷が、本願院の菩提を弔うために秋元家から奉納されたものであることがわかる。本願院は永朝の娘で名は充（?-1836）、毛利大和守室。

なお、この作品は、奉納されてからは打敷として使用されたであろうが、意匠化や加飾技法からして、本来は袱紗であつた可能性が強い。

(6) 黒縞子地南天唐獅子模様刺繡打敷

江戸時代・19世紀後半

縦80.0 横93.0

表裏は、黒縞子地に刺繡で南天の立木と唐獅子を立体的に繡い表す。刺繡は、撚った色糸や金糸を駆縫いするほか、燃り糸の上に燃り糸を更に繡い重ねたり、紙縫りの芯を入れて縛つたりしている。鉄媒染による黒染のため、生地の破損が著しい。

紅平絹の裏には、「清容院殿御遺物 秋元山十四世亮覚代」の墨書きがある。清容院は秋元志朝（1820～76）の奥方で、嘉永2年（1849）8月25日に没した良であり、この打敷はもと袱紗として作られ、生前は清容院が所持していたものであつたことがわかる。

(7) 紅縞子地青滌波折技散らし模様打敷

江戸時代・19世紀

縦159.0 横167.0

紺綾形蘭菊文の紅縞子地に白上げと鹿子絞り刺繡で草花の折枝と青滌波を表した打掛裂を表地に用い、紅平絹の裏を付けて打敷に仕立てる。

刺繡は平縫・纏い縫・金糸駆縫い（白糸で金糸を留める）を用いる。白上げは、糸防染しだあと

に色を挿さずそのままに残す技法で、18世紀半ば以降広く行われるようになった。

表裏は1領の打掛から得た6枚の裂からなり、それらはもと[A]右後身頃、[B]左後身頃、[C]右前身頃、[D]左前身頃、[E]右袖、[F]左袖であつたと考えられる。從つて袴と襟であつた部分は失われていることになる。

当初の模様は菊・橘・梅の折枝を打掛全体に万遍なく散らし、間に青海波を配したもので、18世紀後半以降の武家に打掛にしばしば見られる意匠形式である。草花の折枝の替わりに花束を散らし、円地を青海波のほか立消や紺綾形・七宝繋などの幾何学文でうめた模様が一般的で、地色は白が多いが、この作品のように紅やその他の地色に施されることもある。

紅平絹の裏には、「文久元辛酉年 為圓璋院殿 御菩提 御納物 大權秋元家ヨリ 二枚之内」の墨書きがあり、文久元年（1861）10月6日に没した秋元志朝（1820～76）の奥方の菩提を弔うため、秋元家から光巣寺に奉納された打掛を打敷に仕立てたものであることがわかる。打掛は圓璋院が着用していたものであろう。

(8) 薄紅縞子地松竹梅丸模様打敷

江戸時代・19世紀

縦104.0 横94.0

表裏は、紺綾形蘭菊文の薄紅縞子地に刺繡で若松・竹・梅の丸模様を大きく繡い表す。緑・萌黄・紅・白の色糸は平縫・纏い縫・乗掛け縫い、金糸は駆縫いとされ、金糸に色糸を縫い重ねる技法も見られる。生地3枚を縫い合わせて方形になしているが、着物を引き解いたものではなく、当初は袱紗として製作されたものと考えられる。

紅平絹の裏を付け、これには「文久元辛酉年 為圓璋院殿菩提 大權秋元家ヨリ 二枚之内」の墨書きがある。先の打敷同様、同年10月6日に亡くなつた秋元志朝の奥方の菩提を弔うために、秋元家から光巣寺に奉納されたものである。

(9) 納地竜鳳凰梅桜牡丹模様繡珍油单

江戸時代・19世紀後半

縦49.5 横72.8 奥行き34.0

納地に「四つ爪竜と梅」「菊と桜」「鳳凰と梅」「牡丹」を横段に表した繡珍を表に用い、白麻の裏を付ける。畳むと台形をなすが、立方体に仕立てられており、底面にあたる部分にのみ裂をあてない。すなわち箱状の調度品の上からかぶせて使うように仕立てられているのである。

同形・同質のものが2点あり、それぞれの裏裂には「文久三癸亥年八月 御寄附」「文久三癸亥年八月 清川院殿百五十回忌之節 御寄附」と墨書きされており、これらが同月に行われた秋元喬知(正徳四年<1714>8月14日没)の150年忌の際に作られたことがわかる。

[調査・東京国立博物館 長崎 岩室長]

● 龍海院建造物調査

龍海院

龍海院は、前橋市旧市街地中央よりやや南より、前橋城車橋門の南方の紅葉町の境内を構える曹洞宗寺院で山号を大珠山とする。

前橋藩主酒井氏の菩提寺で、徳川家康の父、松平清康の開基になり、寺号は是寺である。

岡崎城下から川越、駿橋(前橋)と、酒井氏の転封に伴い移動している。前橋では、岩神村(現岩神町)に建立したが、火災に遭って、柿ノ宮村(現紅葉町)に移ったという。

その後、元禄8年(1695)酒井忠孚によって大規模な伽藍造営が行われた。この時、廟庫(御靈屋)、本殿、影堂(御影堂)、書院、衆寮、庫裏、方丈などが出来上がって、伽藍造営がほぼ完成したようである。

その後文政年間に大規模な伽藍再築等の整備が行われているが、その間(約80年)の推移については資料を欠くため明らかではない。文政年間の再興は姫路城主酒井忠実、忠孚の2代によつたもので、本堂は文政12年(1829)、御靈屋は同10年

(1827)に建てられている。

山門は天保12年に上棟したと普請記に記録があるが、建築様式からみて、一時期早い作で、天保時代には左右の回廊及び中央扉構えの撤去や屋根瓦葺き替えなどの大がかりな改修があこなわれたものと考えられる。

鐘楼は建築様式から元禄時に近い作と考えられ、後(文政か)、妻飾りを再用して軒廻りを改修した模様である。また、東西の捲腰を撤去して通路にしたのは近年である。

書院及び庫裏も文政時の再建と思われるが、数度の改修で外觀は一変している。

当院の回廊の範囲については不明である。痕跡の風化度から見ても天保12年の改修時かそれ以前に取り外したもののようにあるが、当院が格式の高い寺院であつたことを物語っている。

本堂

建築様式は和様を基本とし、一部に禅宗様を取り入れている。桁行12間(6.25尺間)、梁間10間(同間)、一重入母屋棟瓦葺、東面、中央内外陣境及び来迎柱丸柱。他は角柱。向拝柱几帳面取り、基盤の上に建つ。

平面積 側柱真内々 430.898m²

軒面積 茅貝外下角内々 619.644m²

山門(中門)

建築様式は和様を基本とするが、一部に禅宗様を取り入れている。三間一戸樓門、入母屋造、棟瓦葺、東面、正面南室「增長天王像」北室「毘沙門天像」を安置。左右に筋付属。

平面積 側柱真々 1階 33.271m²

2階 27.298m²

軒面積 茅貝外下角内々 99.554m²

御靈屋

和様を基本とする建築様式であるが、一部に禅宗様が混入している。桁行5.5間(6.33尺)、梁間2.5間(6.64尺間)、一重入母屋造り、外大壁、軒廻り揚塗り、屋根葺板葺、東面、正面側中央に本堂からの廊下付属、位牌堂を兼ねる。

平面積 柱真内々 53.036m²
軒面積 茅員外下角内々 103.217m²

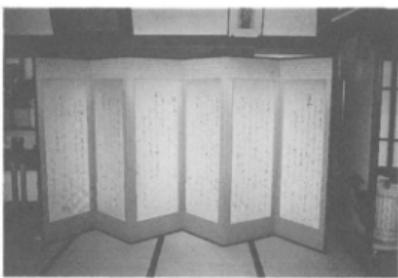


宝冠阿彌陀如來
(觀昌寺)

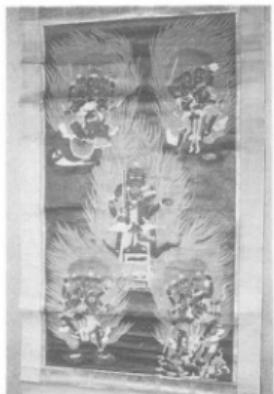
廊下平面積 柱真内々 102.476m²
(調査結果を文化財保護課で要約した。)



雪葉図 (觀昌寺)



六歌仙屏風 (湯清寺)



五大明王
(觀昌寺)



仏書利 (觀昌寺)



釈迦說法圖 (觀昌寺)

III 新指定物件紹介



神明宮の甲冑

神明宮の甲冑 (純糸威 三枚胴具足)

- ・区分分 重要文化財
- ・記号番号 重第61号
- ・指定年月日 平成4年4月14日
- ・所在地 前橋市大手町二丁目12番9号
前橋市立図書館
- ・所有者 前橋市千代田町一丁目13番16号
神明宮
- ・管理者 宮司 東野 操
- ・概要

この甲冑は全体を金箔押しとした華やかで、かつ実用本位の簡素な仕立ての具足である。

具足とは戦国時代に生まれた、甲冑の一形式である。戦国時代におこった歩兵用のやりや鉄砲に

対抗するために生まれた全身をおおう新様式の甲冑類を当世の具足といい、略して具足と呼んだ。

この具足には籠手や佩楯の家地などのように後補と思われる部分もあるが、江戸時代中頃を下らない時期の作と考えられ、保存状態も良好である。

明治12年の神明宮の宝物古器物古文書目録帳写には「甲冑 酒井雅楽頭奉納 壱具」の記載があり、これに該当する可能性が高い。

酒井家は慶長9年(1604)に初代重忠が前橋に入封以来、寛延2年(1749)に九代忠恭が姫路に移封されるまでに、八代にわたり前橋着主となつてあり、重忠と三代忠行をのぞいて、雅楽頭を名乗っている。

社伝によれば、酒井家が姫路に転封するにあたって、神明宮に寄付したものという。



前橋藩家老
小河原左宮の甲冑附旗差物

まえばしはん かろう
前橋藩家老
おがわら さみや かつちあうつけたりはたきもの
小河原左宮の甲冑 附 旗差物
(紺糸威二枚胸具足)

・区分 分 重要文化財

・記号番号 番第62号

・指定年月日 平成4年4月14日

・所在地 前橋市荒牧町

・所有者

・概要

幕末の前橋藩筆頭家老、小河原左宮政徳(1818~1888)所用の具足の皆具である。

兜は紺糸威六十二間筋兜で竹金箔押熊手が前立でつく。胸は鉄鑄地紺糸威二枚胸である。袖は小袖で、他に頬当て、腰手、佩脰、脇当がつく。

旗差物は上部に赤の縁がななめにはいり、「小河原五兵衛」とある。

具足類は2つあり、表面は井柄漆で側面に「川越小河原左宮武器」の貼紙がある。

江戸時代後期のものと考えられる。

現在も小河原家に所蔵されており、保存状態も良好で、美術工芸品として優れていると共に、歴

史的にも貴重な資料である。

小河原左宮は、諱は政徳、字は子辰、通称左宮または多宮、号を松潤、星谷、鬱闊という。代々 藩の重臣の家柄で、石高は2,300石である。小河原近江の長男として川越に生まれ、奏者番を努めた後に家老に進み、弘化3年(1846)の夷国船渡来の際は、武者奉行として活躍した。藩主から信頼され、着士からも信服されていた。藩の儒学者戸井出研齋について経書を学び、尾高高雅に和歌の指導を受け、書道を能くした。

慶応4年(1868)左宮は、富津陣屋(千葉県)の情勢が緊迫したため、總督として急行した。旧幕府の摂兵隊の有志約3千人が木更津に集合し、一部が富津陣屋に武器、食糧などを要求した。

陣屋には、家臣の家族も避難しており、情勢も判然としないため、引き渡しは免れないとして、藩と着士を救うため家老として一切の責任を負つて翌4月3日陣屋で自刃した。

藩主松平直克はその殉死を悼み、明治元年12月25日、墓料五十両を贈った。墓は大手町源英寺にある。また、富津には小河原左宮自刃の地の碑がある。



金剛界曼荼羅



胎越界曼荼羅

あさほんちやくしょくりょうかいまんだら つい
麻本著色両界曼荼羅1対

- ・区分 分 重要文化財
- ・記号番号 重第63号
- ・指定年月日 平成4年4月14日
- ・所在地 前橋市元総社町2379、徳藏寺
- ・所有者 徳藏寺
- ・管理者 住職 河合 祖信
- ・概要

両界曼荼羅は、密教の教義を、大日如来を中心とした諸尊の配置によって図示した曼荼羅である。胎藏界曼荼羅と金剛界曼荼羅からなる総合曼荼羅で、両曼荼羅を合わせて両界曼荼羅または両部曼荼羅という。

密教寺院の堂内では、中央に仏器や法具の並ぶ壇がたり、その両側に両界曼荼羅が懸けられる。向かって右（東）が胎藏界曼荼羅、左（西）が金剛界曼荼羅である。

胎藏とはあらゆるもののが生まれ出る根源という意味である。胎藏界曼荼羅の中央に開花する八葉蓮華は、菩提心をたねとし、衆生への大悲という根によって培われ、方便という花を開き、実を結ぶさまの図示である。

金剛界とは堅い悟りを体とする意味で、それを表現したものが金剛界曼荼羅である。界線で区切る白光円を負い、内觀して金剛身を期する尊像を集合させて作る曼荼羅であるためこの名がある。

この徳藏寺の曼荼羅は麻地に著色しており、彩色の一部に嵌金を使っている。生地は麻布3枚をついている。2幅がはいつた箱に永禄五年の箱書があり、技法、材質等から考えて、箱書通りと考えられる。

願主の法印忠圓は第十世の住職である。

（箱書）表書き (付物力)

上野国群馬郡惣社徳藏寺常口口

両界口

裏書き 永禄 五季壬戌窮夏廿五日

願主法印忠圓

作者 鏡傳房

（軸書）

金 徳藏寺 胎 徳藏寺

（法量）両幅とも（単位cm）

縦幅 144 縦高 244

縦幅 117 縦高 152

麻地幅 38cm 43.5cm 36cm



木遣り

まえばしとびきや、まといふ、はしごごの
前橋鳶木遣り、纏振り、梯子乗り

- ・区分 分 重要無形民俗文化財
- ・記号番号 無民第1号
- ・指定年月日 平成4年4月14日
- ・所在地 前橋市城東町二丁目7番10号
- ・保持者 前橋鳶伝統文化保存会（華粹会）
代表 中村 常男

・概要

木遣りは力仕事と密着した日本独特の作業歌である。大勢が力を合わせてひとつの作業をすると効率よく、かつ安全に進めるための合囃として工夫されたのが木遣りである。木遣りの歌そのものに作業の手順が組み込まれていて、その仕組を心得て、これをうたいながら作業を進めれば、効率よく、かつ安全であつた。

行われる作業の種類によって、木遣りは2種類にわけられる。その一は木や石を運搬する木(石)曳の木遣りである。その二は、建築物の基礎を固める地形の木遣りで、鳶の木遣りがこれである。

建設機械の発達により、祭りの色彩が強くなり、木遣り、纏振り、梯子乗りは一体化したものになつた。

地形の作業の手順は、次のようにある。まず木遣師が1フレーズをソロでうたう。次に、側がこ

れに続く1フレーズをコーラスでうたう。その過程の中で、重い真棒を持ち上げる準備をし、綱を引っ張って真棒を持ち上げて落す。つまり地面が一撻される。この反復によって、地形の作業が進められる。この作業を声に変換したものが木遣りである。

木遣りのテキストは仮名で、一音ずつ書かれており、文字としてよりもうたうための考慮が優先している。その脇に作業のきっかけを示す記号が書き込まれているだけで、楽譜に相当する物は何も書かれていません。

前橋の木遣りの特色は、江戸木遣りの「大間」よりやや調子が早い「中間」である。曲としては「手古(てこ)」「鎌倉」「千穂万歳(せんしゅうばんざい)」「掛束(かけづか)」等約30曲が唱える。現在は、出初め式、初市まつりや橋の渡り初め、落成式などにおいて披露している。

梯子乗りは、しゃちほこ、谷のぞきなどの技がある。

前橋の鳶は、前橋町の形成と共に活動し、その活動の中で木遣りも除々に練られてきた。幕末の前橋城再築にあたり鳶の活動が活発となり、木遣りも活発となってきた。現在も口伝によって伝承され、祭事や慶事に披露される機会が多く、上棟式や落成式には不可欠なものである。



荒砥富士山古墳

荒砥富士山古墳

・区分 史跡

・記号番号 史跡16号

・指定年月日 平成4年4月14日

・所在地 荒砥北部土地改良事業

5工区49-6(仮換地)

2,170m²中76m²

5工区49-7(仮換地)

2,750m²

・所有者

・概要

富士山古墳は、7世紀末に築造された高さ3mの円墳で、墳丘径36m、周縁を含めた直徑は40mである。4段に構築された墳丘であり、各段の斜面に河原石を用いた葺石が施されている。周縁は、約50cmの深さでまわっている。

埋葬施設は南南東に開口する全長6mの両袖型

横穴式石室である。葬道、玄室とともに夫井石がすべて残り、保存状態は極めて良好である。一部切り石が使用されている。石材は輝石安山岩が主であるが、一部角閃石安山岩も使用されている。

玄室部は方形ではなく、袖の部分がわずかに内側に入り込み、いびつな六角形をしている。また玄門部と葬道部の各々には扉石があり、南側に倒れて残っている。

石室全面には前庭が台形状に広がり、正面および両側面は、扁平な河原石を横方向に置き、積み上げたきわめて精巧な構造となっている。

この古墳は、上毛古墳綱目記載の荒砥村150号古墳であり、直刀二振りが出土したという。調査によつて、前庭部から銅鏡、土師器類、須恵器類が発見されている。

墳丘の規模や、石室の規模から測定すると30cmを基準とする尺度を用いて設計、構築されている。

赤城山南麓の古墳時代終末期を代表する古墳であり、玄門部と葬道部に扉石が確認された県内初めての古墳で、横穴式石室の構造が明らかになつた。

IV 文化財保護事業

1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成3年度において、次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の（継社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の関口藤太さんと御供徳雄さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施いたしました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが37件、市指定のものが90件あり合計148件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

① 指定区分別文化財

区分	重要文化財	史跡	天 然	紀念物	文 化 財	民 俗	国(?)重要	美術 品	合計
国 指 定	3	11	1	0	0	6	21		
県 指 定	32	4	0	0	1	0	37		
市 指 定	62	16	5	7	5	0	90		
合 计	97	31	1	7	6	6	148		

② 時代区分別文化財

時代	国指定	県指定	市指定	合計		
				件 数	割合(%)	
(天 然)	1	0	0	1	0.7	
原 始	1	0	0	1	0.7	
古 代	14	2	16	32	21.6	
中 世	3	19	28	50	33.8	
近 世	2	13	41	56	37.8	
近 代	0	3	5	8	5.4	
合 計	21	37	90	148	100.0	

(平成4年4月14日現在)

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバーパートナーハウス、業者による除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物 件 名	区 分	所 在	面 機
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484m ²
2	金冠冢古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407m ²
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000m ²
4	串 橋 門 鍋	市指定史跡	大手町2-5-3	400m ²
5	猪井家屋代墓地	市指定史跡	紅葉町2-8-15	3,800m ²
6	天 神 山 古 墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730m ²
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝霞町4-9-3 他	15,081m ²
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町2669 他	11,068m ²
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五丁目501号	16,000m ²
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀2616-1 他	12,283m ²
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	鷹岩町鷹社1587-2	1,793m ²
12	宝塔山古墳	国指定史跡	鷹岩町鷹社1806	2,204m ²
13	女 堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・飯土町	16,732m ²
計				87,982m ²

(4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を配置し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1~2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上で情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対応することができます。

各地区的文化財保護指導員は、下記の表の通りです。



地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	福島 守次		
越社・元締社	新木一郎治		
広瀬・山王	岡根 辰雄		
芳賀・南橋	栗原 秀雄		
城 南	森村伊勢雄		

(平成4年4月1日現在)

(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所の本館として建てられたもので、エンタシス状の玄関の角柱、レンガ積みの基礎、高い天井、大壁造、横樋目地板張など明治時代の代表的洋風建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

また、今年度は開館以来10年を越えたため、外装等の工事を行いました。



(6) 後 援

① 秋元歴史まつり

後援、平成3年11月16日～17日



龍海院酒井家墓地保存整備年次計画

2. 整備事業

(1) 総社歴史散歩道整備

平成3年度は、昨年度作成した史跡文化財推定復原図を圖版にして、現地に銅板葺きの屋根のついた説明板を設置するなど、次の事業を実施しました。

- ① 総社歴史散歩道説明板等設置（5基）
 - ・史跡めぐり案内板（JU群馬総社駅）
 - ・総社城總社城下復原図説明板（総社公民館）
 - ・山王庵寺復原図説明板（山王庵寺駐車場）
 - ・前橋城天守閣復原図説明板（虎姫観音堂）
 - ・蛇穴山古墳復原図説明板（蛇穴山古墳）
- ② 総社歴史散歩道ガイドマップ改訂版作成
 昭和63年度作成のガイドマップを一部改訂し2500部作成。希望者に配布しました。
- ③ 総社資料会構想準備会開催（2回）
 地元有識者、学識経験者による準備会を2回開催し、総社資料館構想について協議しました。
- ④ 「第2回秋元歴史まつり」への協力（11月16・17日）。（地元自治会を中心に開催、20,000人の参加者有。）



山王庵寺復原図説明板

(2) 龍海院酒井家墓地保存整備

昨年度に引き続き本年度も龍海院酒井家墓地保存整備委員会（会長大國軍之丞）に補助金を交付し、墓地入口部分の植栽、墓地内砂利舗装、陣屋杉跡の修復等の整備を行いました。

工種	平成2年春	平成3年度	平成4年度
移転施設工	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地内の樹木の制定 ・墓地洋風の樹木（椿）の移植 ・墓地入口付近の植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地入口部分の植栽 	
裏垣塀設工	<ul style="list-style-type: none"> ・墓地正面に門、堀、和洋の壁の設置 ・墓地入口付近の植栽 ・墓地入口の門扉の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・塀用既存石垣壁建立 ・研（摩根瓦）の被覆 	
周囲の整工		<ul style="list-style-type: none"> ・狭利通路（墓地内庭園歩行） 	
墓地整備工	<ul style="list-style-type: none"> ・灯篭、水龍等の設置 ・墓地入口に藤枝設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・墓石裏面被覆（初代） ・木製看板置（2代・3代） ・墓石磨み替え（14代・15代） ・灯篭設置 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・陣屋杉跡の修理、土壟の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍海院酒井家墓地保存整備事業要領告白作成



酒井家墓地入口（陣屋杉跡）

役職	氏名	住所
会長	大國 軍之丞	
副会長	石川伸一 近藤斗茂 大磯誠 森本三次	
顧問	成瀬慧安 岡本信正	
幹事	中山和夫 松島栄治 阿部正 高柳松之進 深町芳郎 郡司博	
(常任幹事)		
監事	下村善之助 鈴木覚太郎	
会計(兼)	郡司博 酒井一雄	

(3) 八幡山古墳修復工事

前橋市朝倉町にある国指定史跡八幡山古墳の第3次年の墳丘修復工事を実施しました。修復箇所は、後方部南側と北側部分で、破損の著しい部分に盛土、植栽（リュウノヒグ）をほどこし、墳丘の保護保存をはかりました。



八幡山古墳後方部南側

(4) 文化財補修工事

前橋市総社町にある国指定史跡宝塔山古墳南側の金網フェンス取替工事を実施しました。これにより、石室前庭部の保護保存と見学者の安全対策がはかれました。



宝塔山古墳石室前庭部

(5) 標柱・説明板等設置工事

平成3年度は、次に挙げる指定文化財史跡の標柱等の設置を実施しました。

① 標柱の新設……………4基

- ・稻荷新田の薬師（市指定重要有形民俗文化財）
- ・鳥羽の大日如来及び笠塔婆（市指定重要文化財）
- ・徳藏寺の懸仏（市指定重要文化財）
- ・片貝神社太々神楽（市指定重要無形文化財）

② 標柱の塗替……………1基

- ・秋元氏墓地（市指定史跡）

③ 説明板の塗替……………1基

- ・勧形神社牛頭天王の獅子頭（市指定重要有形民俗文化財）

④ 雜工事

- ・説明板支柱立替（2基、野良犬獅子舞、無量寿寺）
- ・標柱撤去（2基、善勝寺、妙安寺）



(6) 史跡境界杭設置工事

平成3年度は、国指定史跡蛇穴山古墳、女堀（城南工業団地内）、県指定史跡前橋天神山古墳の境界杭を設置しました。

3. 普及事業

(1) 第17回前橋市文化財展

- ・日 時 平成3年7月25日㈭～8月17日㈰
- ・会 場 前橋市立図書館
- ・テー マ 「日本史の中の妙安寺」

3年度の文化財展は、妙安寺所蔵の書画、工芸品、文書等を紹介しました。妙安寺は、親鸞上人自らが彫った寿像を徳川家康等の働きかけにより、東本願寺に遷座したことで知られ、多くの県指定文化財を所蔵しています。期間中には阿久津宗二先生による「日本史の中の妙安寺」の講演もあり、またNHKのニュースにも取り上げられたことから多くの方々が訪れ好評を博しました。



(2) 後二子古墳現地説明会

- ・日 時 平成3年10月14日㈰
- ・会 場 前橋市西大室町後二子古墳

前橋市ではすぐれた自然景観で知られる大室の地に「大室公園」の建設を予定しております。

今年度は国史跡の後二子古墳および小古墳の範囲確認調査が行われ、堀の様子や、石室の様子、墓道や埴輪など多くの成果をおさめました。この成果を市民の皆さんに知っていただくため、現地説明会を開催いたしました。

(3) 文化財めぐりパンフレット増刷

史跡めぐりに役立つパンフレットを市民の皆さんに無償で配布しておりますが、残部些少となつたため、昨年度までのパンフレットに新しく指定となつた文化財の場所や説明をいれ、特に好評を博している総社元総社コースと城南地区を増刷し

ました。

(4) 文化財愛護作品コンクール

文化財愛護の気持ちを培うために、文化財愛護作品コンクール（ポスターと標語）と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しており、今年度はコンクールの年として、市内の小中学校の皆さんから1,104点もの応募をいただきました。甲乙つけがたい作品ばかりでしたのが専門の審査員による慎重な審査の結果、下記のような作品が選ばされました。これらの優秀作品を冊子（文化財愛護作品集）にまとめ、学校をはじめ各関係機関に配布しました。



標語の部

市長賞 桜井理恵子 第六中3年
「感じよう 歴史の風 歴史の香り」

教育長賞 都丸 岳史 東小4年

〃 狩野麻里子 鎌倉中2年

優秀賞 矢端 賢三 中央小4年

〃 橋本 順一 第五中2年

絵画ポスターの部

市長賞 大山 聰子 元総社中1年

教育長賞 関根 京子 第一中3年

〃 関谷 努力 元北小5年

優秀賞 神保 香織 南橋中2年

〃 小林 麻由 東小5年

(5) 第19回前橋市郷土芸能大会

- ・日 時 平成3年11月9日㈯午後2時～4時半
- ・会 場 前橋市民文化会館 小ホール

本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に、前橋市郷土芸能大会が開かれました。市内に眠っている郷土芸能を発掘することに重点をあいた今大会には、初出演の3芸能をはじめ、5団体が日頃の練習の成果を発揮し、素晴らしい演技・演奏で観衆を魅了しました。尚、事前の広報・宣伝活動を活発に行なったためもあり、例年にもまして大勢の市民がつめかけました。



をテーマに、浅間山・榛名山を中心とした火山災害とそれにかかる前橋の様子を平易に解説していただきました。おりしも島原普賢岳爆発のニュースがマスコミを賑わしていることから、市民の関心も高く、前橋市立図書館会場もほぼ満員になるほどでした。

本年度は資料として、各々にカラー資料や、平安時代と古墳時代の浅間山の火山灰を配布し、分かりやすいと好評を博しました。



○出演団体

- ・総社植野一本木稻荷神社太々神楽 保存会
(総社町植野)
- ・田植唄 保存会 (泉沢町)
- ・上大島町の天道念仏 老人会 (上大島町)
- ・二之宮の式三番叟 保存会 (二之宮町)
- ・若宮町1丁目の祇園 自治会
(若宮町1丁目)

(6) 教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを作成しました。内容は「秋元氏と天狗岩用水」で、秋元氏に関係する、前橋、京都、都留、川越、日光、館林、山形等の歴史資料、絵図、文化財、用水の流れ等を15枚撮影し、昨年度作成の25枚を合わせ、合計40枚を1セットとし、解説書をつけてスライド化しました。

(7) 第10回文化財普及講座

本年度は第10回の節目を迎えたことから、考古学研究の最新成果を取り上げ「火山災害と考古学」

10月26日 市立図書館 火山災害を発掘する

—浅間編— 松島 栄治さん

11月2日 市立図書館 火山災害を発掘する

—榛名編— 石井 克巳さん

11月9日 市民文化会館

第19回前橋市郷土芸能大会鑑賞

11月17日 総社・元総社地区

秋元歴史まつり見学

11月30日 市立図書館 テフラ分析により火山の歴史を探る 早田 勉さん

(8) 史跡・文化財めぐり

本年度も30団体1,500人もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。小学生の社会科見学や老人会や自治会主催の史跡めぐり、町村の史跡めぐりで前橋の素晴らしさを理解していただきました。

(9) 各種講座への講師派遣

地区公民館で主催する「生涯学習」などの文化財講座に講師として依頼されるなど、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めました。

⑩ 文化財防火マー

昭和24年1月26日に、奈良法隆寺の金堂壁画が消失したことをきっかけに毎年実施されている文化財防火マーは、本年度で38回目を迎えました。今回も前橋市消防本部と協力して、次の指定文化財所在地で訓練や査察を行いました。

- ・火災防御訓練

- 円満寺（前橋市後閉町）

- ・防火査察

- 前橋市蚕糸記念館、東照宮、臨江閣本館・別館、旧アメリカンボード宣教師館、孝顕寺、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、日輪寺、善勝寺、上泉郷倉、上野総社神社、光巣寺、大徳寺

⑪ 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、1年間で20件、総点数100点にも及びました。主なものは次のとあります。

- ・前橋城絵画ネガ 姫路文学館へ

- ・山王庵寺出土品 しもつけ風土記の丘資料館

- ・下鶴谷遺跡出土鰐ヶ島台式土器 県教委へ

- ・山王庵寺出土「放光寺銘瓦」ネガNHK学園

⑫ 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存の為に活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成を行いました。

- ・総社地区史跡愛存会

- ・荒砥史談会

- ・前橋市郷土芸能連絡協議会

⑬ 「総社・元総社ガイドブック」パンフレット配布

このガイドブックは総社歴史散歩道整備の一環として前年度作成されたもので、総社・元総社地区的文化財についての歴史やみどころがわかるようになってあります。今年度このパンフレットを市民の皆さんに無償配布し、好評を博しました。

⑭ その 他

- ・下長儀操翁式三番叟の関東プロック大会出演

これは文化庁移動芸術祭の一環として行われたもので、今回の静岡大会には、他県の6団体に加え、上記保存会が県代表として出演し、絶賛をあびました。



期 日 平成3年10月20日

場 所 静岡市民文化会館

・グリーンドーム絵画・古代文化展

グリーンドーム前橋が文化施設としても利用可能なことを広く市民に知ってもらう事を目的とし、文化財保護課が協力し、上記の展示を行いました。これには標語と絵画ポスターの文化財愛護作品をはじめ、市内の代表的文化財である石製鷲尾の複製や埴輪、そのほか埋蔵文化財等を展示し、文化財普及とグリーンドームの新しい利用方法をアピールしました。

期 間 平成3年12月14日～12月29日

※なお市立図書館でも文化財愛護作品展（ポスター89点、標語170点展示）を実施しました。

期 間 平成4年2月4日～2月16日

・「埋もれた文化財を訪ねて」の編集

これは前橋市文化協会が編集発行したものですが、内容が文化財保護課が執筆し「広報まえばし」に連載したものの集大成だったため、連載当時と様子が変わっていることもあります。もう一度、文化協会と共に現地確認や内容の吟味を行いました。

- ・「広報まえばし」への執筆

- ・文化財に関する問い合わせ・相談への対応

- ・体験発掘 小中学校の希望にこだえ体験発掘の場を設け、文化財愛護の精神を培いました。

4. 調査事業

調査事業は、次のような内容で実施されています。文化財調査委員調査、民俗文化財調査、専門家による調査、建造物調査、職員による調査。このうち、調査委員による調査、専門家による調査と建造物調査は、本書に項目を立てて掲載しており、民俗文化財調査も平成4年度に報告書が刊行されますので、そちらをご覧ください。ここでは、梵鐘銘文調査と總社神社本殿調査を取り上げます。總社神社調査では、文化財建造物保存技術協会の協力を得ました。

○靈光寺梵鐘銘文調査

前橋市下阿内町甲97に所在する靈光寺には、戦前まで梵鐘があつたが、戦争中の金属供出により鋳がつぶされ、現在はない。最近この梵鐘の銘文を写真に撮つたものが発見された。その文は以下の通りである。

文 白

願諸賢場 道入道場

願諸悪趣 惡白離苦

宝曆十四年逢清灘歲應吉旦

上州山田郡鶴田庄大間間町光榮寺法印寿賢謹

寺二十世西光寺中興開山法印実辨求之

鋳工東都神田住 粉川市正藤原重信

製作年の宝曆14年は1674年にあたり、6月2日に明和に改元されている。十四の次の開達は甲のこと、汚達は申のことである。また歳の次の應は、旧暦10月の異名の應鍾とも考えられるが、改元の月から考へると疑問である。また、靈光寺は真言宗豊山派、山田郡大間町光明寺は真言宗智山派、近くの前橋市上佐鳥町西光寺は元は法相宗、今は天台宗である。光明寺に確認したところ、寿賢という住職が十代ほど前にいたとの話であった。同じ真言宗で豊山派と智山派は付き合いが多くつたとのことであった。西光寺に確認したところ、実辨という住職はいないとのことであつた。この住

職については県内の真言宗の西光寺に問合せたが判明していない。

鋳物師についても不明である。

○總社神社拝殿調査

市内元總社町に所在する總社神社は、古くからの歴史を持ち、本殿が県指定重要文化財に指定されている外、指定文化財が多い。

今年、この拝殿については、本殿調査の際に建物図面作成を行つたが、今年内容調査を行い、以下の調査結果を得た。(抜粋)

總社神社拝殿は、県指定重要文化財の本殿の前に建つ建物で、桁行3間、梁間2間、一重、入母屋造、千鳥破風付、向拝1間唐破風付、屋根銅板葺の建物で南面する。

建築年代は本殿より遅れ、文化12年から天保14年にかけて建築されたと伝えられる。

建築後の修理の経過は明らかではないが、屋根はもと茅葺であったと伝え、大正2年に柿葺に改められ、昭和15年には屋根を銅板葺に改められ、天井板には鶴の絵が書かれている。

この建物は、北関東の近世社寺建築の例に漏れず、向拝の海老虹梁、手挾などが彫刻化し、向拝の柱、壁面は彫刻で装飾化されている。

しかし、他の拝殿と比較し、縁まわりの装飾、正面横唐戸の浮彫彫刻、壁側面の詩歌の彫彫り等装飾性が高まっているのは、本殿が慶長の建物であるため、彫刻の装飾が少なく、拝殿をより彫刻で飾ることで、本殿の装飾性を強く補うために意図されたものである。特に壁面に彫られる詩歌、向拝に飾られる彫刻、脇障子の透彫彫刻等は写実的で、当時の大工・彫刻師の技術の高さを物語ついている。

建物彫刻に意をそそぎ、江戸時代後期の特徴をよく表した好例である。また、建築時期、大工名、彫刻師名とも判明しているものは貴重であり、地方工匠の進作で、当時の技術の高さを示す遺品として高く評価される。

5. 埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の調査をふりかえって

平成3年度は公共及び民間による各種開発に先立ち、60件の埋蔵文化財調査を実施した。その内訳は発掘調査11件、試掘調査34件、表面調査14件、立合調査1件であった。(別表参照)

本年度は、大空公園史跡整備事業の一環として、後二子古墳の範囲確認調査を実施したが、この調査は、国指定史跡に初めて発掘調査のメスを入れるもので、①墳丘・周堀の規模・形状の把握、②道輪列の検出、③猿・犬の土像のついた円筒埴輪の出土、④石室の全容解明など、史跡整備のための基礎資料を得るという当初の目的を十分達成した。

各種民間開発については、今まで、試掘の段階から資金面で開発者の協力を願ってきたが、本年度から試掘については国・県の補助金を含めて公費で実施することになった。ちなみに、本年度の補助金対応の試掘は25件であり、このうち1件は引き続いて発掘調査を実施した。

試掘調査一覧表32号の調査は、前橋工業団地造成組合による上増田工業団地造成に先立つもので、調査団(委託)で対応したものである。本調査により約17haにわたって水田跡を中心とした遺跡を検出した。

前橋市を地形的に3つの部分、すなわち赤城火山斜面と呼ばれる赤城山南斜面、広瀬川低地帯と呼ばれる広瀬川と桃の木川の間の周辺、前橋台地と呼ばれる西部から南部にかけての台地の部分に分けてみてみると、調査件数はそれぞれ9件、13件、38件であり、このうち発掘調査が行われた所、あるいは試掘により遺跡が確認された所は、1件を除き赤城火山斜面と前橋台地に位置していた。広瀬川低地帯は遺跡の少ないところであるが、最近はあちこちで検出されており、前記の上増田工業団地予定地の中原遺跡もこの部分に属する。整理事業としては、芳賀団地遺跡群(昭和48~55年度発掘調査)と横樋遺跡群(熊の穴遺跡及び横樋遺跡(平成2~3年度発掘調査))について実施した。なお、各発掘調査についても現地調査の後、引き続き報告書刊行に向けて整理作業を実施した。

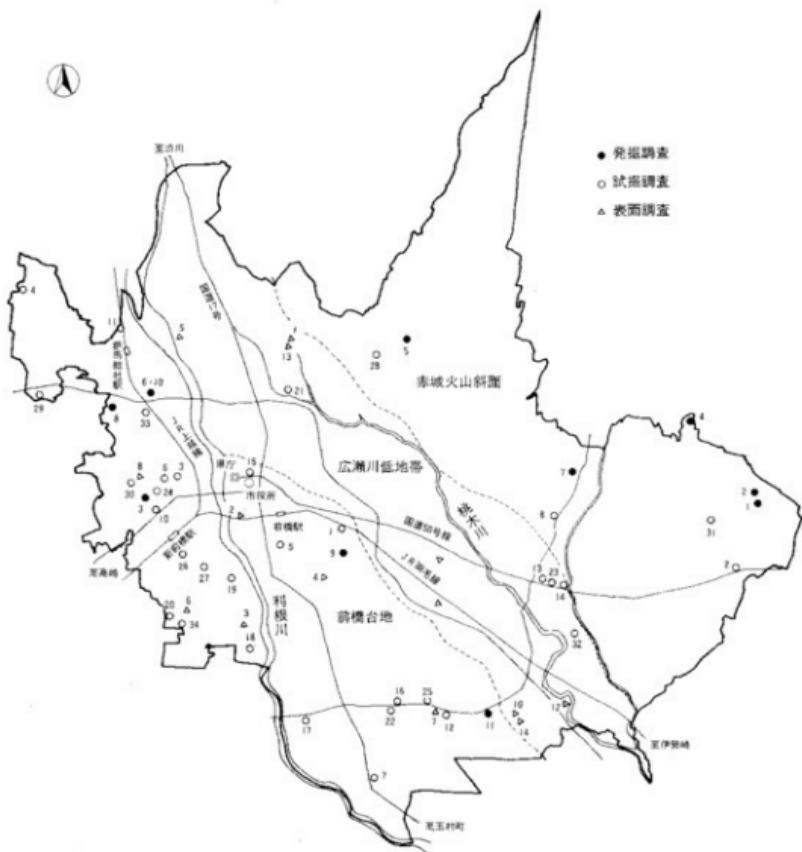
埋蔵文化財に対する市民の理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚をはかるため実施している遺跡の現地説明会は、本年度は、後二子古墳範囲確認調査地で行われた。雨天にもかかわらず、約300人の見学者でにぎわった。

以上のとおり、本年度も市内各地の遺跡発掘調査から古代史を解明するうえで貴重な資料を多数収集することができた。各遺跡の調査概要について次に述べる。



平成3年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	遺跡コード	地番	調査面積	調査原因	調査年月日	備考
1	後二子・小二子古墳		西大室町2614-19	1,174	史跡整備	H3. 7. 22~11. 30	範田確認済
2	内堀遺跡群	3E11	西大室町2169-3番	4,000	公園建設	H3. 5. 28~11. 23	
3	元鷦鷯社明神遺跡	3A52-59	元鷦鷯社町2067番	1,173	区域整理	H3. 6. 25~41. 8	
4	横樋遺跡群	3E18-19-24	西大室町28-15番	12,500	工業団地造成	H3. 5. 13~11. 25	
5	芳賀北原遺跡	3C8	鳥取町北原363-5	250	変電所建設	H3. 5. 7~6. 7	
6	糸川遺跡	3A53	鰐社町鰐社1406	250	個人住宅建設	H3. 8. 30	市内遺跡 補助金
7	今城遺跡	3E25	富田町1751-3	90	農業施設建設	H3. 6. 17~7. 3	
8	国分禪II遺跡	3A51	鰐社町鰐社2484	20	土地改良	H3. 7. 25~26	
9	二子山II遺跡	3H12	文京町3-324-5番	1,124	個人住宅建設	H3. 4. 15~19	
10	鶴川II遺跡	3A56	鰐社町鰐社1408	200	個人住宅建設	H4. 1. 27~2. 1	市内遺跡 補助金
11	前田II遺跡	3Q10	東郷町123-1	400	事務所建設	H3. 7. 10~8. 20	委託



平成3年度試掘調査一覧表

番号	地番	調査面積(m ²)	調査原因	調査年月日	結果	備考
1	文京町1-494-1番	1,500	マンション建設	H3. 5. 8	無	
2	東大森町77-1	3,200	ドライブイン建設	H3. 6. 26	無	
3	大友町2-6-15番	4,172	マンション建設	H3. 6. 11~13	無	
4	鶴間町55	860	工場建設	H3. 6. 18		
5	六供町458	500	店舗建設	H3. 6. 12	無	
6	元船町向10-1, 2	231	事務所建設	H3. 6. 6	無	
7	新宿町48	1,565	ドライブイン建設	H3. 7. 25	無	補助金
8	富田町286-4, 5	3,306	費地転用(養豚緊き場)	H3. 7. 26	無	補助金
9	鷺社町鷺社14番外	908	個人住宅建設	H3. 8. 9	有	補助金 埼川TII遺跡 免掘調査実施
10	元船町向茅谷73-3	453	店舗建設	H3. 8. 9	無	
11	鷺社町鷺ケ丘115番-3番	7,230	住宅分譲	H3. 6. 23	有	免掘調査予定
12	中内町78-1	4,228	倉庫建設	H3. 9. 5	無	補助金
13	美井町28-1番	1,224	ガソリンスタンド建設	H3. 9. 9	無	補助金
14	今井町105-1	4,173	ドライブイン建設	H3. 9. 10	無	補助金
15	大手町2-4-12	280	店舗用住宅建設	H3. 9. 17	有	補助金
16	宮地町5-5	2,287	倉庫建設	H3. 10. 24	無	補助金
17	公田町向2-1, 2, 3	2,005	ドライブイン建設	H3. 11. 12	無	補助金
18	下新田町55番外	7,000	宅地造成	H3. 11. 18~19	無	補助金
19	上新田町大字大通西678番外	1,308	宅地分譲	H3. 11. 20	有	補助金
20	鶴荷新田町321-1番	3,830	宅地造成	H3. 12. 11	無	補助金
21	北代田町向字鶴東569-1番外	2,000	店舗建設	H3. 12. 12	無	補助金
22	宮地町48-1番	16,938	ゴルフ練習場建設	H4. 2. 28	無	補助金
23	今井町174-4, 5	1,557	ガソリンスタンド建設	H4. 1. 14	無	補助金
24	元船町向字墨敷368番-3	463	店舗建設	H4. 2. 4	有	補助金 大友屋町IV遺跡 保存協議
25	西善町18-3番	1,596	倉庫建設	H4. 2. 10	無	補助金
26	古代町字下川302-1	776	事務所建設	H4. 2. 17	無	補助金
27	鷺社町字古市前562-3番外	1,162	事務所建設	H4. 2. 18	無	補助金
28	小神町向703-1番	1,877	工場建設	H4. 3. 3	無	補助金
29	青梨子町1678番外	1,926	福祉施設建設	H4. 3. 17	無	補助金
30	元船町向字船敷2280-1, 4	320	個人住宅建設	H4. 3. 24	無	補助金
31	西大塚町(市道5-5-6)	7,000	道路改良	H4. 2. 12~13	無	補助金
32	上塘口町向600番外	242,000	工業団地造成	H3. 12. 12~4. 3, 16	有	中原道線 4年度免掘調査予定
33	鷺社町鷺社地内	1,170	道路建設(区画整理)	H4. 3. 4	有	大塚駅道路、4年度免掘調査予定
34	鶴間新田町地内	2,660	道路建設	H4. 3. 6	無	

平成3年度表面調査一覧表

番号	地番	調査面積(m ²)	調査原因	調査年月日	結果	備考
1	鷺崎町字寺砂原17-1, 2	1,106	宅地分譲	H3. 6. 1	無	
2	和泉町1-131-1	178	不動産売買	H3. 6. 5	無	
3	下新田町字寺砂原4-1番	1,577	アパート建設	H3. 8. 16	無	
4	天川原町東下188-1, 2	560	不動産売買	H3. 8. 20	無	
5	緑が丘町17	2,998	賃貸建	H3. 9. 20	無	
6	前原町向79-4	152	不動産売買	H3. 10. 11	無	
7	西善町738-1	2,024	費地転用	H4. 1. 13	無	
8	元船町向2068-3	176	個人住宅建設	H4. 1. 24	有	立会調査実施
9	下大島町字橋上529番	2,796	作業所建設	H4. 2. 14	無	
10	鶴形町字善心寺201番外	2,469	宅地分譲	H4. 2. 14	無	
11	野中町446-1番	12,246	ゴルフ練習場建設	H4. 2. 26	無	
12	小屋原町字下新田1766番外	36,580	ゴルフ(練習)場建設	H4. 2. 26	無	
13	鷺崎町字砂原15-3	430	宅地分譲	H4. 2. 27	無	
14	鶴形町字上244-1	1,308	宅地造成	H4. 3. 5	無	

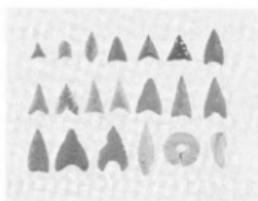
平成 3 年度埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	後二子古墳・小二子古墳	後二子古墳 小二子古墳	前橋市考古委員会	4. 2. 26	3年度調査 調査確認調査
2	市内遺跡発掘調査報告書	城山遺跡、城川口遺跡	〃	4. 3. 30	〃
3	国分寺II遺跡	国分寺II遺跡	〃	4. 3. 30	〃
4	沼西I・II遺跡	沼西I・II遺跡	〃	4. 3. 31	元・2年度調査
5	元龜社明神遺跡X	元龜社明神遺跡	埋蔵文化財免拂調査	4. 3. 30	3年度調査
6	横浜遺跡群IV	熊の穴遺跡 上横浜遺跡	〃	4. 3. 16	〃 委託
7	横浜遺跡群V	熊の穴遺跡、舟II遺跡・上横浜遺跡	〃	4. 3. 16	〃
8	万葉北原遺跡	万葉北原遺跡	〃	4. 3. 25	〃
9	前田II遺跡	前田II遺跡	〃	3. 12. 10	〃 委託

平成 3 年度整理事業一覧表

番号	遺跡名	整理事業期間	発掘調査期間	備考
1	万葉北原遺跡	3. 4. 1~4. 3. 31	昭和48. 5. 7~55. 3. 31	万葉北原遺跡 市議委
2	熊の穴遺跡 上横浜遺跡	3. 6. 1~4. 3. 31	平成2. 1. 30~3. 3. 15	横浜遺跡群 委託
	その他	本年度免拂調査を実施したものは引き続き年度いっぱい整理事業を実施。		

1. 横俵遺跡群



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



2. 内堀遺跡群V (上縄引遺跡)



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 烧窯工事場地造成工事（前橋工業団地造成組合）
所在地 前橋市西大室町28-1番地ほか
調査期間 3年5月13日～3年11月20日
担当者 都所敬尚・大山虎久・上野克巳
調査面積 12,500m²

調査の経緯昭和63年度より上記事業に伴う開発区域が既に引きされ、4年次を迎えた。今年度の調査範囲は昨年度までに既に実施されている熊の穴遺跡・熊の穴II遺跡及び上横俵遺跡の拡張部分である。

立地 横俵遺跡群は、前橋市北地区の東方約9kmに位置する。北は大胡町、東は船川村に接し、地形的には赤城山南麓に広がるなどかな斜面上に立地している。その中でも、今回の調査区は赤城山の形成過程で作られた「舟形山」と呼ばれる丘陵の斜面及び谷辺部にあたる。

旧石器時代 なし

縄文時代 熊の穴II遺跡から集石4基、土塁9基が検出された。このうちいづれも「落し穴」と呼ばれるものが4基、丘陵の谷辺部に存在していた。また、遺物包含層からは縄文式土器7,888点、石器2,840点が出土した。このうち土器は昨年

復元様、草創期縄文文化系から後期加賀利式まで断続的に検出された。そのうち主体となるものは前橋竹貫文化であるが、土器全般をみると昨年度より古いものが占める割合が高く、縄文時代の本丘陵における生活域をとらえる一資料となつた。さらに、高糸文又系土器や前湖浮島式、岡津式土器等の出土は、周辺遺跡でも類例が少なく貴重な事例となつた。

弥生時代 なし

古墳時代 熊の穴II遺跡では昨年度の調査で7世紀後半代と思われる古墳が9基確認されており、今回の調査では新たに4基が検出された。規模・形状とも昨年度のものと同様であり、熊の穴古墳群の全貌を明確に確認することができた。このうち、M-14号墳は小古墳で、乳頭状の埋葬施設があった可能性が高い。上横俵遺跡でも上横俵古墳群のうちの3基の古墳を確認したが、昭和時代の開闢のためか、残存状態は極めて悪かつた。ここでは昭和8年の開闢時に供養を行なったと思われる「御脇壹造」なる碑が検出された。また、熊の穴遺跡では集落の端部にあたると思われる住居址が一軒発見された。

事業名 大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地 前橋市西大室町

調査期間 3年5月28日～3年7月23日
担当者 関部守夫・前原 豊・伊藤良
調査面積 4,000m²

調査の経緯 上記事業に先立ち、公園予定地内の性戦文化財を調査し公園設計の基礎資料とする目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、今年度で5年目になる。

立地 前橋市の東側、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に船川村、東に藤原町が隣接する。周辺には三二子古墳をはじめ、上縄引遺跡、柿木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代 未調査。

縄文時代 集石2基を検出した。2基の集石は、ほぼ同じ規模で、どちらも拳大の粗粒安山岩を用いており、加熱による赤化やひびきがみられた。このほかに、調査区から縄文時代前期から後期までの遺物約80点を検出した。

弥生・古墳時代 岩溝墓2基と第1条を検出した。2基の岩溝墓は、どちらも調査区北西隅で検出された古墳時代初頭のもので、昭和62年度調査の上縄引遺跡で検出された岩溝墓12基を合わせると14基になる。また、今回検出された2基の岩溝墓は、1基が凹形で、もう1基は、北側を県道沿岸歩道線に切られ現存していないが、もう1基は、前方後円形を呈し、上縄引遺跡では初めて検出された形のものであった。溝は、平成元年第1調査区で検出された溝の延長で、覆土の中の遺物から6世紀前半の蒸然性が高い。

奈良・平安時代 平安時代の土坑2基と灰窓1基を検出した。2基の土坑はどちらも長方形を呈し、そのうちの1基からは土製荷車車輪が出土した。灰窓は、全長10.7m、全幅7.5m、斜面対する方向に地面を振り抜いた平窓状のもので、入り口・焚口部と焼成部、煙道部から成る。平面形は、入り口・焚口部から奥に向かって狭くなる形である。焼成部の内側には6個の穴が検出されたが、煙道として使用されていた穴は1つのみであった。

3. 元総社明神遺跡X



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 前橋市都市計画事業元総社
(西部第三明神) 地区土地区
画整理事業
所在地 前橋市元総社町3,543番地ほか
調査期間 平成3年6月25日～11月8日
担当者 鈴木雅浩・狩野吉弘
調査面積 1,173m²

調査の経緯 57年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第10回をを迎えた。今年度は新設道路1カ所、既存道路の拡幅2カ所の調査を実施。

立地 前橋市街の西約2kmに位置する。地形的には、棒名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の側にあり、染谷川と牛池川に挟まれた台地の緩やかな斜面上に立地している。本地域は、古くから上野国府推定地とされ、周辺には国分寺跡や山王寺跡、宝塔山・蛇穴山古墳が存在する。

縄文時代 井戸址および溝跡より流れ込みと思われる砾石4点、打製石斧1点、凹石1点出土。遺構は検出できなかつた。

弥生時代 なし

古墳時代 遺物は包含層より土師質灰、盤、貝巣等など数点出土。遺構の確認は

できなかつた。

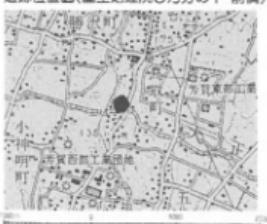
奈良・平安時代 確認できた遺構は住居址3軒、溝跡4条、井戸址6基、土坑62基。うち30トレンチ：D-5号土坑は長径97cm×短径82cmの巨大な円形を呈する。本トレンチが昭和36年、尾崎蔵左雄博士により調査された「元総社小学校校庭遺跡」に接壤し、そこから建物遺構が検出されていることを考慮すると、本土坑は建物址の柱穴と推定することもできる。遺物は灰、カワラケ、土錐、鉄釘、瓦などを多数。

中・近世 遺構は着忍城関係と思われる溝址1条、井戸址1基そのほか土坑6基を検出。着忍城関係と推定される3トレンチ：I-4号井戸址からは、近世墓戸石史における16世紀前半大窓1b期に比定される天目茶碗が、ほぼ完形で出土している。本地域は、國府開闢を中心として古代から中・近世まで多様な出土遺物がみられ、瀬戸、美濃産陶器の出土例も目新しいものではない。しかし、この当時、天目茶碗が堺や大阪など先進地域に興った新しい文化（抹茶）とともに成立した経緒を踏まえると、本遺物と着忍城との関連性は否定できない。

4. 芳賀北原遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 民間開発(配電用変電所新設)
所在地 前橋市島取町字北原353-5
調査期間 平成3年5月7日～6月7日
担当者 鈴木雅浩・狩野吉弘
調査面積 250m²

調査の経緯 平成2年度に芳賀地区的電力需要の増加に対応するため、配電用変電所の新設が東京電力株式会社によって計画された。開発に先立つ試掘調査の結果、住居址等の遺跡が確認されたため、平成3年5月2日付で発起調査委託契約を締結、本調査を実施することとなつた。

立地 本遺跡は前橋・今井線、篠崎町の交差点から高花台方面へ約1.5km程北上した大正用水わきの台地上に所在し、赤城山南麓に広がる赤城火山山麓の末瀬に位置する。この台地状の斜面を中小の刈川が南北流し、部分的に解析谷を形成しているため、付近一帯は凸状台地と谷地が複雑に入り組んだ地形を呈している。

本遺跡地の標高は143.9m、発掘前の現況は柔軟で、本遺跡地から北へ約1kmの地点に芳賀北原古墳群跡が、南へ約600mの地点には芳賀西原工芸美術地遺跡が所在するなど遺跡の宝庫でもある。

縄文時代 ハードロームを掘り込んだ隙し穴1基を検出。住居址等の遺構は確認できなかつた。

弥生時代 なし。

古墳時代 住居址4軒を含む遺構を検出した。住居址のうち3軒は東竪を有し、一方が4～5mの楕円形を呈する標準的なものであるが、他1軒(H-4号住居址)は一辺約8m近くの正方形プランを呈する大形住居址である。検出された住居址のうち唯一西竪を有するものである。遺物は、全般に外縁を有する模様体、長範型が顯著な變などが主体で6世紀後半(鬼高II～III式)の所産と思われる。

奈良・平安時代 調査区分外に伸びたため完掘できなかつたものも含め、住居址6軒を検出。確認可能なものは、いずれも一辺3～4mの方形プランで東壁に竪を有する。H-3号住居址からは内外面に丁後手と墨書きされた高台皿が出土している。

5. 前田II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



6. 城川I、II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 民間開発(事務所建設)
所在地 前橋市東善町122、123-1
調査期間 平成3年7月10日～平成4年1月20日
担当者 新保一美(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 萩野博巳(スナガ環境測定株式会社)
調査面積 400m²

調査の経緯 工又・ティ・ティ中央移動通信株式会社群馬支店の事務所建設に先立つ試掘調査依頼を受け、確認調査を実施したところ、平安時代の住居跡等を検出した。その後事業者と市教委との間で協議・調整を重ね、市教委の指導のもとに前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査を担当しスナガ環境測定株式会社が発掘調査を実施した。

現地調査を平成3年7月10日から同8月20日まで行い、整理作業を同8月22日から平成4年1月20日まで行なった。

立地 市域の東南側に位置する東善町は、南を伊勢崎市・玉村町と接する農業地帯である。主要地方道高崎・鶴見線と両藤岡・大胡線の交叉点の南東隅の一角にあたり、広瀬川底地帯を流下する河川

の一つである御川が東側に南下し前橋台地との境を形成している。標高78m前後で北から南に僅かに傾斜する地形を呈しており、平成2年夏に発掘調査が行われた前田遺跡の北西に当たる。

遺構 平安時代住居跡14件、ビット4基、土坑1基。

遺物 土師器・須恵器・羽蓋・土鏡・砥石・鉄製品・鎌・唐銭

事業名 市内遺跡(個人専用住宅建設に伴う発掘調査)

所在地 前橋市総社町総社城川1405(城川I)、1638(城川II)
調査期間 平成3年8月30日(城川I)、
平成4年1月27日～2月1日(城川II)

担当者 井野誠一・新保一美(教育委員会文化財保護課)

調査面積 908m²(城川I)、1,053m²(城川II)

調査の経緯 城川I遺跡は平成3年7月23日付で神谷雄二氏より個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が出され、8月9日に試掘調査が行なわれた。試掘調査の結果、遠見山古墳周辺及び近世の溝が検出された。検出された遺構について8月30日に発掘・走査の調査を実施した。

城川II遺跡は平成4年1月10日付で神谷雄二氏より個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が出され、城川I遺跡の調査結果より周辺の外側になると考えられたが、埴輪が旧状と大きく変更をうけているため、周辺の状況を把握

するために調査を実施した。

立地 総社古墳群の遠見山古墳の南に接して位置する。周辺は江戸初期の総社城内にあたり、遠見山も物見に使われ改変をうけたようである。また周辺には古墳が他にも存在していたようで、道端の出土が見られる。

古墳時代 城川II遺跡は遠見山古墳の南東部にある。調査結果でみるとこの部分の埴丘の形状はあまりわかつていないことがわかった。周辺が埴丘をめぐっていることが確認された。また、近世の総社城の堀と考えられる溝及び石垣を含む溝が検出されている。

城川II遺跡は遠見山古墳の南西部にある。城川II遺跡で検出された周辺の走向・埴丘の状況について調査を行なった。調査の結果、南西部では埴丘が大きく削平されていることがわたり、周溝とその南の溝よりFAが検出された。出土した埴輪は円筒埴輪片であり、大別すると二種になる。

7. 今城遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 バラ温泉畠地建設
所在地 前橋市畠田町1751-3
調査期間 平成3年6月17日～7月3日
担当者 井野誠一・新保一美(前橋市
 教育委員会文化財保護課)
調査面積 90m²

調査の経緯 本遺跡は畠田バラ温泉畠地組合がバラ温泉畠地を建設しようとした地であるが、表面調査の結果遺物の散布がみられたため、平成3年5月30日に試掘調査を実施した。基礎で削平をうける部分より住居跡が検出され、調査を実施した。

立地 赤城山南麓で小川川によりできた南北に長い丘の上にある。同様な地の西には沼西遺跡、東には菅野遺跡が位置する。

奈良時代 試掘調査で検出された2棟の竪穴式住居について調査を実施した。

H1号住居跡 東西4.9m、南北6.1m、面積29.0m²とこの時期にしては広い住居跡。

多様な遺物が出土している。鉄鋸歯、銅製品をはじめ、多数の土器類が検出された。ほぼ8世紀中頃のものである。

遺構は柱穴もしつかり作られており、床面も固くなっている。

H2号住居跡 東西4.6m、南北5.4m、面積24.8m²とH1号より一回り小さいが、この時期では大きい。埋土中に日乾石等ガレンズ状に確認された。住居が失なわれた後も塗みとしてのこつていたと考えられる。

柱穴はやや大きめで、二つ連なるものもあり、建て直しが考えられる。

遺物は比較的少なかったが、時期的にはH1号住居跡と同じ時期と看做される。

近年この時代の規模の大きい住居跡の検出例がふえてきており、西の沼西遺跡でもこの時代の規模の大きな住居跡が検出されている。

このH1・H2が主とする建物群の存在の可能性がある。

8. 国分境II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 小堀根地改良(農道舗装工事)
所在地 前橋市総社町484番地先
調査期間 平成3年7月25日～26日
担当者 井野誠一・新保一美(前橋市
 教育委員会文化財保護課)
調査面積 20m²

調査の経緯 本遺跡は、総社町の山王寺跡の北西にあたり、西は高速道路建設時に削除がなされた国分境遺跡に接している。小字は作兵衛原と呼ばれ、少し高い山になっていたとのことである。平成3年5月16日に土地改良課より埋蔵文化財確認調査の依頼が検出され、5月29日に試掘調査を行なつたところ2棟の住居跡が検出された。その後振幅により、7月25・26日に調査が実施された。1棟は重複で約3棟が検出された。

立地 事業予定期は東西、南北への道路予定期であったが、住居跡の検出された南端部以外は早くに削平をうけていたようである。

古墳時代 H2号住居跡。H1号住居跡と重複して検出。カマドの東側は失なわれていたが遺物が多く出土している。鬼高期のもの。平面だ円の口縁をもつ壺は

類例が少ないものである。

奈良時代 H1号住居跡、H2号の東側に重複して検出される。カマドは粘土で両袖を作ってあつたが、左袖内に丸瓦を封入してあつた。芯材としたものか。供給源は山王寺寺跡。住居跡の時期が奈良時代末であり、山王寺が一時衰退し、再築されたと考えられていること結びつくもの。

H3号住居跡 H1、2号の西100m。部分的な検出で時期は不明。

国分境II遺跡の調査では山王寺跡に係わる資料が出土しており、その盛衰の裏付けとなりうるものである。

9. 二子山前IV遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



10. 後二子古墳・小二子古墳



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 区画整理事業
所在地 前橋市文京町三丁目324-5
他
調査期間 平成3年4月15日～19日
担当者 井戸城一、新保一美(前橋市教育委員会文化財保護課)
調査面積 1124.24m²

調査の経緯 本調査の地区は二子山地区土地区画整理事業が進められているところで、移転に伴ない住宅が建てられる地点で遺跡に係る地点の調査を実施している。本地区は平成3年4月4日に区画整理工事より埋蔵文化財の確認調査の依頼があり、試掘調査の結果溝が検出されたので4月15日～19日に調査を実施した。立地 地図定史跡天川二子山古墳の東に接している。古墳と遺跡地の間の道は古くは東側にはり出していたとのことである。文書館調査での調査結果から推定では東側の側面内に位置していた。

古墳時代 二子山古墳に係わる遺構及び遺物は検出されなかつた。

中近世 畜産地より検出された溝は3条とも中近世と考えられる。いずれも南北の走向。西側のW-1は、渓谷区の西

端にあたり、堆積の壙丘とも重複する位置にある。幅約4mで深さ約2mを測る。中位以下には多量の糠があつた。走向、土層から考えると、南側で前年度に調査された二子山前II道跡の西側で検出された溝につながるものと思われる。

W-2、3はW-1と同様の走向をもち、東側に位置している。本道跡の南側の天川町は古代より近年まで水田が広がっていた地区であり、そこへの用水路として使われていたものか。

天川二子山古墳の西側に関しては周辺でこの二子山前II～V遺跡でも確認されておらず、早く削平をうけていると想えられる。地形からみるとあまり深くなかったと考えられる。本道跡の西方には西北から南東に走る「女溝」と呼ばれる時代不明の遺構もあり、本道跡の溝も係わりをもつものか。

事業名 大室公葬史跡整備事業
所在地 前橋市大室町2614-1ほか
調査期間 3年7月22日～3年11月30日
担当者 藤部守寛、前原 豊、伊藤 良
調査面積 1,174.5m²(範囲確認調査)

調査の経緯 本市では、大室三子古墳が所在する大室地区に約37haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、史跡整備委員会が組織され、「史跡整備基本構想」が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究室の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。

立地 市の東側、赤堀山南麓の丘陵性台地に位置し、北に川村川、東に赤堀町が隣接する。本古墳を含む大室三子古墳は古くから著名であり、周辺には赤堀茶臼山古墳や赤堀神社が存在する。

後二子古墳 調査の結果、丘陵の北斜面に構築された全長55m・前方部幅59.5m・高さ11m、主軸をN-5°-W-10°とする前方後円墳であることが判明した。周辺

は1基であり、周辺での全長は102mを測る。壙丘は葺石を用いて、壙底の基壙をもつことを特徴とする。石室は、巨大な石を用いて構築され、玄道部で下がる構造で、全長約9.5m・幅約2.7m・高さ約2.2mで、主軸をN-20°-Eにとる。石室は基壙面を拂ひこんで設置されているため、周辺から入り口まで海苔の蔓道で接続されていた。

埴輪列は基壙面と埴輪部に巡らされる。出土遺物としては、土製小穢(猪・犬)が貼付された円筒埴輪や人物・馬・家・廟・甕・大刀などの埴輪の外に墓前祭祀に使用された土器類が出土した。

築造時期は、基壙築のテフラ(Hr-FP)や出土遺物から6世紀中葉から後半と考えられる。

小二子古墳 全長36m・後円部最大径27.5m・前方部最大幅13.5mの帆立貝式古墳気味の前方後円墳であることが判明した。周辺は1重で、壙丘には葺石は用いていない。遺物は、円筒埴輪や器形埴輪が出土。後二子古墳に接壤し、基盤層のテフラ(Hr-FP)や出土遺物から後二子古墳に近接した時期の墓葬が推定される。

11. 芳賀団地遺跡整理・台帳整備事業



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



芳賀団地遺跡整理事業は、昭和48年から昭和55年まで発掘調査を実施し、その後作成委員会を組織し、整理作業を実施してきた。

平成3年度は芳賀北部畠地遺跡分の整理に入り、遺物の基礎整理から選別、台帳に整理しての作業を行なつた。時期的には平安衛が多く、遺物の面でも芳賀東部、西部畠地遺跡とは異なる様相がみられる。

遺構については、遺構図版の整理を進め、来年度の原稿化の準備を進めた。

遺構数が住居跡のみでも二百数十軒を数え、物理的な作業量を必要とした。

当時の調査が各種の状況から小規模の断続的な調査になっており、調査に種々の困難があつたことは間からもうかがえる。

台帳整備事業は平成2年度より芳賀団地遺跡整理事業と合体しての事業となり作業を進めてきた。

市内で調査の遺跡について台帳にまとめるとともに、市内の遺跡の測量を進めた。平成2年度は遠見山古墳、平成3年度は新田塚古墳の測量を行なつた。

また、平成3年度までの測量を位置図

にまとめた作業を実施、印刷を行なつた。

平成4年度に一覧表を作成し、あわせて配布して、市内の開発への資料及び学術資料とする予定である。

まだ、前橋市内の埋蔵文化財に関するパンフレットは平成2年度作成後早くに配布が完了したため、本年度追加の印刷を行ない配布を行なつた。

市民・市内開発業者・開発部門の理解が深まつた。

6. 大室公園史跡整備事業

(1) 大室公園史跡整備委員会

平成3年度は、大室公園史跡整備委員会を2回開催し、昨年度策定した「大室公園史跡整備基本構想」にのっとり、委員会の下に、より専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会（後二子古墳・小二子古墳範囲確認調査）、民家変遷部会（民家変遷基本設計）、資料館部会（資料館建設基本構想資料収集）を設け事業を進めてきました。各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、各部会、部会長会、委員会等の事業進歩に合わせて、事務局の打ち合わせも18回開きました。

大室公園史跡整備委員会の経緯

平成3. 5. 27㈪ 第4回大室公園史跡整備委員会開催（平成3年度の史跡整備事業について審議）

平成3. 5. 29㈬ 教育民生常任委員会へ報告（大室公園史跡整備基本構想について報告）

平成3. 6. 1㈯ 文化庁へ報告（第4回大室公園史跡整備委員会の協議内容報告と指導）

平成4. 2. 10㈪ 第1回部会長会開催（第5回大室公園史跡整備委員会資料について協議）

平成4. 2. 25㈫ 文化庁加藤調査官来橋（第5回大室公園史跡整備委員会について指導）

平成4. 2. 26㈬ 第5回大室公園史跡整備委員会開催（本年度の各事業の報告、来年度の事業計画審議）

平成4. 3. 27㈮ 文化庁へ報告（第5回大室公園史跡整備委員会の協議内容報告と現状変更申請指導）

平成3. 4. 24㈭～平成4. 3. 19㈭ 文化財保護課と公園緑地課による事務局打ち合わせを18回開催



第4回大室公園史跡整備委員会

平成3年度大室公園史跡整備委員会組織

○ 史跡整備委員会

	氏名	職名
指 導	加藤 允彦	文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官
顧 問	岡本 信正	前橋市教育委員会教育長
委 員	近藤 義雄	前橋市文化財調査委員
	白石太一郎	国立歴史民俗博物館救援
	梅沢 重昭	群馬大学教授
	伊東 功	群馬県都市施設課長
	上戸 正博	群馬県教育委員会文化財保護課長
	松島 実治	古墳整備部会部会長
	桑原 稔	民家変遷部会部会長
	阿久津京二	資料館部会部会長
	大崎 昭一	前橋市公園緑地専門委員
	岡口 和雄	前橋市総務部長
	福田 俊夫	前橋市公園緑地部長
	遠藤 次也	前橋市教育委員会管理部長
	渡辺 勝利	前橋市総務部財政課長
	浅見 亘	前橋市教育委員会総務課長

○ 古墳整備部会

部会長	松島 実治	前橋市文化調査委員
幹 事	井上 雄雄	勢多郡東村立果小学校長
	松本 浩一	群馬県埋蔵文化財調査センター所長
	秋池 武	群馬県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財第二係長
	右島 和夫	群馬県埋蔵文化財調査センター 指導主事
	細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課長
	遠藤 和夫	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長

◎ 民家変遷部会

部会長	桑原 稔	国立豊田工業高等専門学校教授
幹 事	中沢 右吾	前・前橋市文化財調査委員
	池田 修	群馬県立前橋工業高等学校教師
	西田 健彦	群馬県教育委員会文化財保護課主任
	渡辺 正義	前橋市総務部人事課付副主幹
	高橋 賢誂	前橋市教育委員会文化財保護課 文化財保護係長

◎ 資料館部会

部会長	岡久津宗二	前群馬県立歴史博物館副館長
幹 事	丸山 知良	前橋市文化財調査委員
	外山 和夫	群馬県教育委員会文化財保護課 課長補佐
	石川正之助	群馬県埋蔵文化財調査センター 主任専門員
	相澤 貞順	前橋市立女子高等学校教師
	木下 正夫	前橋市建築部建築課長
	福田 記雄	前橋市教育委員会文化財保護課長

◎ 事 務 局

福田 記雄	前橋市教育委員会文化財保護課長
細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課長
青柳 和彦	前橋市公園緑地課建設第二係長
高橋 賢誂	前橋市教育委員会文化財保護係長
遠藤 和夫	前橋市教育委員会埋蔵文化財係長
須田 哲夫	前橋市公園緑地課主任
丸山 直人	前橋市公園緑地課主任
駒倉 秀一	前教委文化財保護課主任
高橋 正男	前教委文化財保護課主任
農部 守央	前教委文化財保護課主任
井野 修二	前教委文化財保護課主任
前原 豊	前教委文化財保護課主任
井上 敏夫	前教委文化財保護課主任
伊藤 良	前教委文化財保護課主任

実がわかりました。また、事業の進捗に合わせて、部会を5回開催し幹事より指導を受けました。

古墳整備部会経緯

平成3.5.9(木) 第1回古墳整備部会開催

平成3.5.27(月) 第2回古墳整備部会開催(現地にて)

平成3.8.6(火) 第3回古墳整備部会開催(現地にて)

平成3.10.3(木) 第4回古墳整備部会開催(現地にて)

平成3.10.13(日) 古墳範囲確認調査現地説明会開催

平成4.2.3(月) 第5回古墳整備部会開催



(2) 古墳整備部会

史跡整備のための基礎資料である古墳の規模・形状等を明らかにするため、国指定史跡後二子古墳・小二子古墳の範囲確認調査を実施しました。文化庁の許可を得た後、幅2mのトレンチ調査2本、石室調査等を約4カ月間行いました。調査の結果、墳丘に埴輪列の存在を確認するとともに、全国的に珍しい猿と犬の土製品が付いた円筒埴輪を検出、石室前方に墓道を確認する等、新たな事

(3) 民家変遷部会

大室公園建設予定地の東南の郷土歴史ゾーンに計画されている赤城型民家の移築復原、古代住居の復原のための「民家変遷基本設計」を委託作成しました。基本設計では、赤城型民家は、市指定重要文化財「日向根家住宅」を主家とし、長屋門・土蔵など付属屋を含めた形で移築復原することになり、また古代住居は、古墳時代の県内諸遺跡の発掘調査成果を参考にし、同時代の屋敷構えを想

定した復原計画になりました。部会は、事業の進捗に合わせて4回開催し、基本設計について話し合いました。

民家變遷部会經緯

平成3. 5. 27(月) 第1回民家変遷部会開催

平成3.6.24(月) 第2回民家変遷部会開催(現地調査)

平成3. 11. 29(土) 第3回民家交換部会開催

平成4. 1. 24(土) 第4回民家麦酒部会開催

(4) 資料館部会

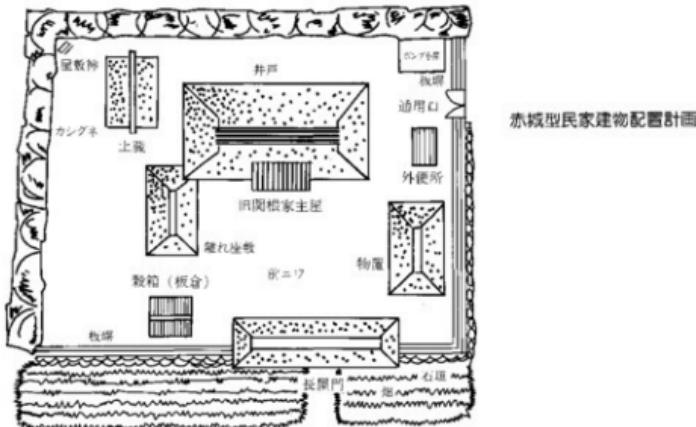
資料館建設のための独自の基本構想策定を目指し、関連資料の収集及び調査研究を行いました。また、部会は3回開催し、そのうち第2回目は、先進地博物館の調査研究視察を行いました。

資料館部会の経緯

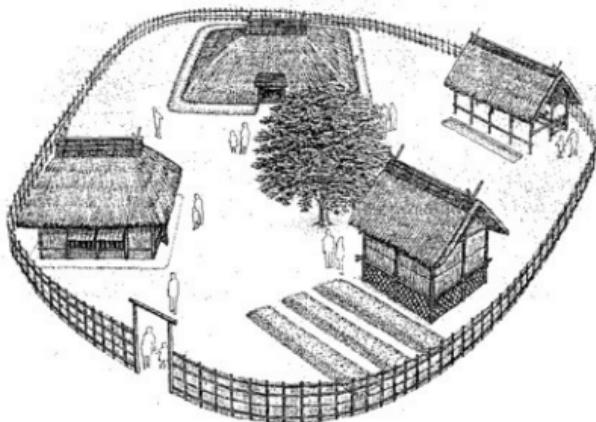
9平成4. 5. 27(月) 第1回資料館部会開催

平成4.11.1900 第2回資料館部会開催（狭山市立博物館、川越市立博物館調査研究視察）

平成4.1.22(木) 第3回資料館部会開催



古代住居推定復原バース



7. 上泉郷蔵保存修理

(1) 上泉郷蔵について

郷蔵は、江戸時代幕府の命令により、飢饉などの備えとして、穀物を貯えた蔵である。各村ごとに建てるよう命令がでたが、実際は3、4カ村が共同で造つたもののが多かつたようである。

前橋藩松平家の領地だった上泉村でも、藩の命令により穀物の貯蓄を始めて、6年後の寛政8年(1796)にこの郷蔵が建てられている。

その間の様子を蔵に保管されていた古文書から知ることができる。修理の様子をみると、最初の修理は天保14年(1843)で、その後は安政5年(1858)、明治3年(1867)、明治19年(1886)に行われていることがわかる。最初の期間は47年あり、その後は、ほぼ15年おきに修理をしている。最近では、昭和50年、昭和57年、昭和63年に修理を行っている。

(2) 現況

平成2年8月10日、台風11号の風雨により郷蔵東壁が崩落したことにより現状調査を行った。

平成2年8月20日㈪

五味 盛重氏

前 文化庁建造物課主任調査官

県指定重要文化財臨江閣修理担当

・全体として

構造材がいたんでおり、全体として南からやや東に傾いている。東壁が崩れたのも、内部の基礎、柱、小舞がいたみ、全体に沈下し壁が耐え切れなかつたためである。非常に危険な状態であり、倒壊のおそれがある。

・屋根について

西側棟が大きく沈下しているのは、榼木がいたんでいるためと思われる。中心から東は当初の高さと思われる。瓦が痛んでおり、雨漏りがしているのではないか。その水が壁をぬらし、壁をいためている。南東部分では軒桁がいたみ、また、はすれがあり、垂木が直接壁に食い込んでいる。

・壁について

東壁は真中が9cmほど沈下しており、基礎、柱、小舞、縄等がいたんでいる。ぬきの腐食が激しい。土壁の塗り方も一度で行っている。南壁は屋根の荷重が直接かかるのであり、入り口上にひびわれが入り、窓の鉄格子がゆがんでいる。

・土台について

ほとんど、腐っていると思われる。

・今後の施設

全面解体修理が早急に必要である。

(3) 保存修理

この結果を受けて、地元自治会、文化財保護課、県文化財保護課で協議を行い、3カ年計画で全面解体修理を行うことが決まる。

平成3年度 解体調査、補足材準備、基礎工事

平成4年度 木工事、屋根工事、左官工事

平成5年度 錆工事

平成3年度は、総事業費15,000,000万円の費用で、事業を実施した。

郷蔵内部に保管されていた廻り舞台の部材を収納フレハブに移動し、屋根から慎重に解体を始めた。解体しながら調査を行い、当初材調査、補足材調査を行った。解体した結果、予想以上に痛んでいることがわかった。

工事は平成3年10月30日に着工し、平成4年3月31日まで実施した。

補助事業者 前橋市上泉町自治会

設計監理業者 効文化財建造物保存技術協会

施工業者 不二建設株式会社

指導 専 前橋市建築部建築課

あとがき

今年は前橋市制施行100周年の年であり、記念行事が盛り沢山に行われています。文化財保護課が扱っている、千年、二千年という年月から比べれば短いようにみえる100年の歴史でも大きな変化があり、たくさんの内容を持っています。

市内の各団体が行う事業にも歴史を扱ったものを見ました。

文化財保護の活動も対象は雄大であっても、事業はほんのわずかな時間で行うものです。どうしても目先の仕事におわれて事業を振り返ってみることがなくなってしまいます。100周年という節目の年にあたって、前橋市政における文化財保護の動きを見直してみることは意義のあることだと思います。

次の節目に、文化財保護行政が充実して効果があったと振り返りたいものです。

平成4年9月

文化財保護課長

町田重雄

平成3年度 前橋市文化財調査委員

近藤義雄
丸山知良
松島栄治
阿久津宗二
梅沢重昭

文化財保護課職員

文化財保護課長	福田紀雄
埋蔵文化財係長	遠藤和夫
文化財保護係長	高橋靖一
主任	馬場正央
"	高橋豊
"	園部守
"	井野誠
"	井野修
"	前原正
"	上原敏
"	井伊敏
"	狩野吉
主事	鈴木雅
"	都敬
"	大知
"	山上和
嘱託員	新保一

平成3年度 文化財調査報告書 第22集

平成4年9月25日印刷

平成4年9月30日発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市上泉町664-4
印 刷 上田印刷工業株式会社
前橋市天川大島町305-1

